

折紙探偵団新聞

マイケルさん
永遠に
30号

折紙設計夜話

川畑文昭

第六回

【内部からの設計法】

第4回までは主に折り紙の外周部（辺）から必要な角を設計する手法を述べてきました。しかしながら、その方法では必要なカドの数が多くなるにつれ、折り紙の中心部の造形に不要な紙がどんどんと重なり厚くなり、ついにはとても造形ができない限界がくることに気がつかれると思います。折り紙の外周部（辺）からの設計はわかりやすく便利な反面内側の不要部分の増大という適用限界が存在するわけです。ではどうすれば良いか。それが今回紹介する内部からの設計方法です。この方法はカドを折りだすのに必要な円の領域を最初に配置し、いわば折紙の内部から設計する方法です。

まずその基本的考え方を説明することとします。最初に図1の様に3つのカドがそれぞれ接しているケースを考えます。これを円領域で描くと図2の様に3つの円領域が接していることとなります。この場合には即座に図3に示す様な展開図設計ができるわけです。

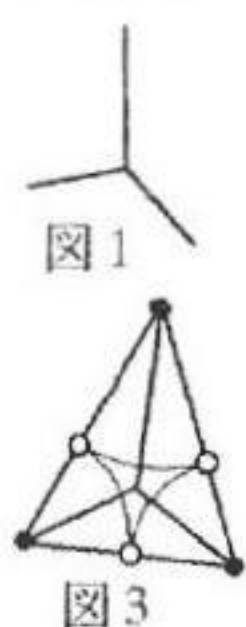


図1

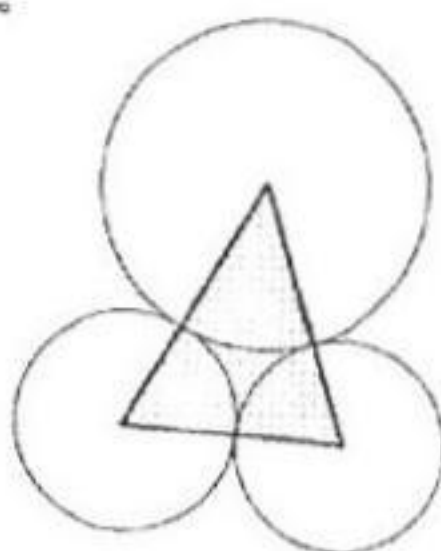


図2

図3



図4

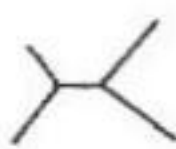


図5

次に4つのカドが接している場合ですが、この場合にはカドの集合体として図4及び図5に示す2通りが存在します。この場合の設計には第2回および第4回で述べた設計軌跡線を用います。まず図4の場合ですが、図6の様に円領域を互いに接触させて、その結果図7の様な展開図を得ることができるわけです。また図5の場合にも幹の部分を考えて円を配置し図8の様な展開図を得ることができます。

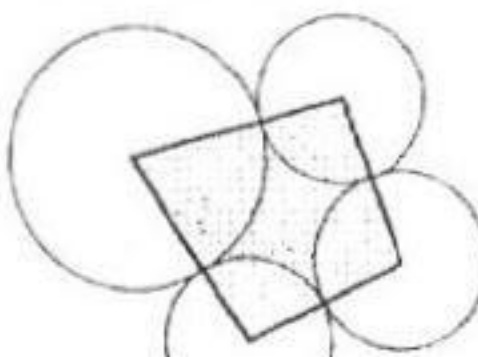


図6



図7

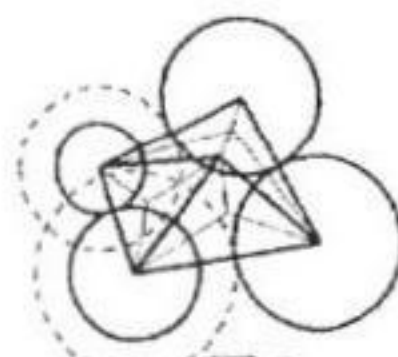
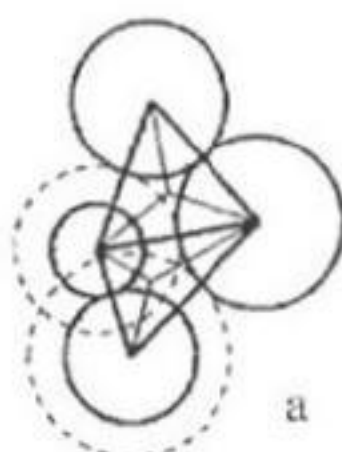


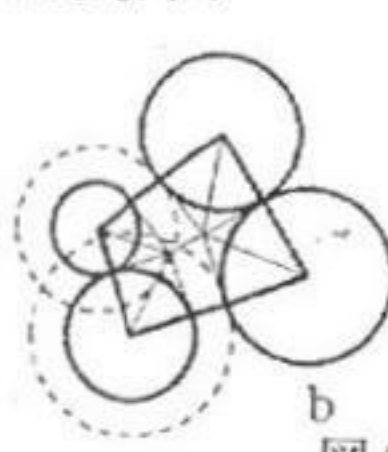
図8

ここで円領域配置の自由度について図8の例で考えてみましょう。図5のカド

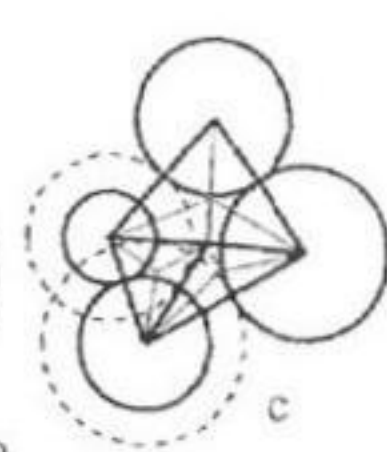
を得る配置として例えば図9に示す多くの場合が考えられます。例えば図9-aでは3つのカドの複合問題に帰結できることになり、また図9-bの例では特殊解として非常にシンプルな展開図を得ることができます。それ以外の図9-cでは図8に示した方法によって展開図を得ることになります。この方法による具体的な設計方法について述べて見ましょう。例として図10のカドを折り出してみることとします。



a



b



c

図9

まず各カドに必要な円領域と、その周囲に幹の領域を描き、それぞれの相対位置関係を確保しつつ図11の様に配置したとします。この時に3つの円領域あるいは4つの円領域どうしが互いに接するように配置してあれば、即座に図12に示す展開図の設計が可能となるわけです。これにより得られた展開図を図13の様に折紙に割り付け、図14の様に折り上げることができます。この円領域の配置は非常に自由度が高いため効率良い設計検討が円領域配置の段階で可能となるわけです。

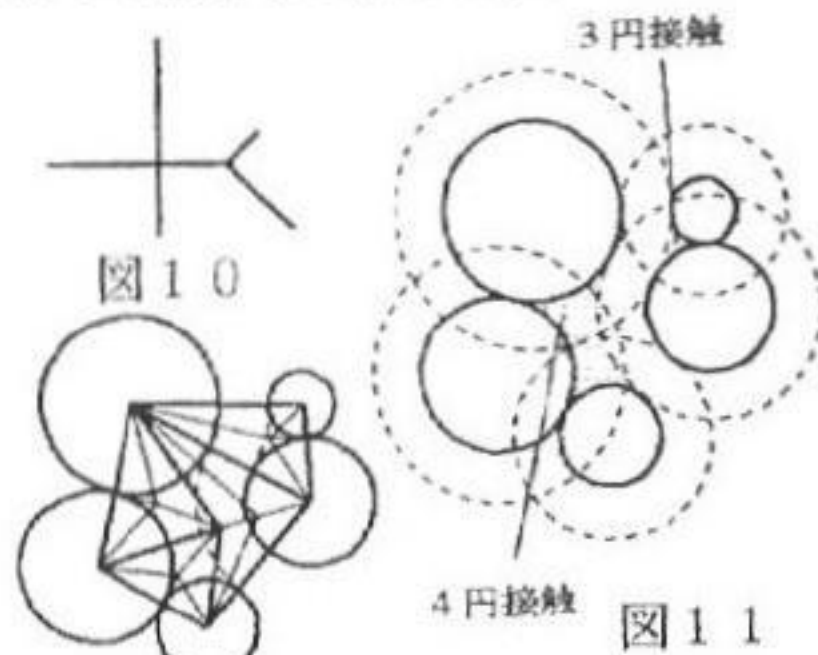


図10

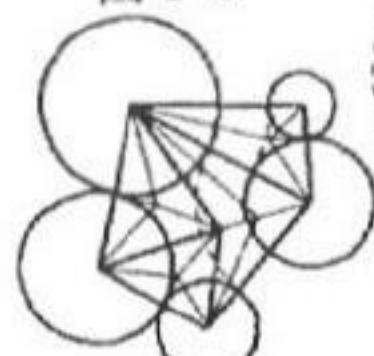


図12

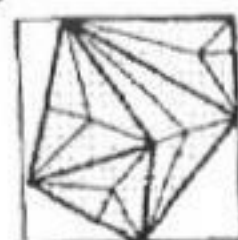


図13



図14

では5つのあるいはそれ以上の円領域が接触したらどうなるかという疑問が生ずるわけですが、例えば図15の様に仮想の円を追加することにより、複数の領域円接触は必ず3あるいは4個の円接触に置き換えられるということが目黒俊幸さんによって明らかにされています。

今回までで論じられなかった折り紙の辺からおおよび内部からの設計の組み合わせ手法についてはいろいろ課題もあり、私自身もまだ検討中のところが多いのですが、また別の機会が有りましたら述べてみたいとおもいます。（おしまい）

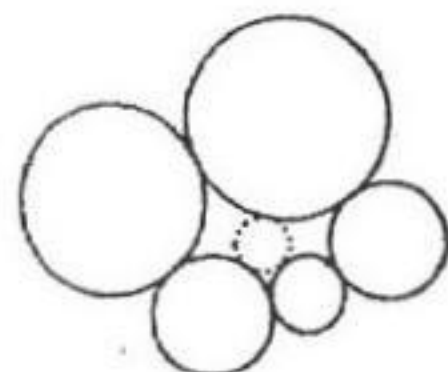


図15

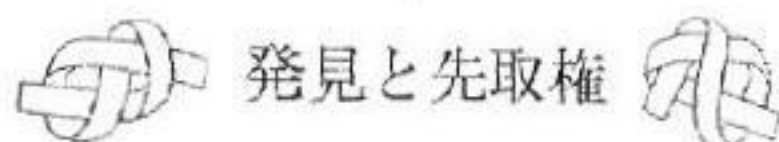
※おわびと訂正※
前29号の第8図にて1/3と3/5の分割比が入れ替わっていました。ここに訂正いたします。

折紙博物誌

第二部

— 前川 淳 —

§ 折り紙における相似性



発見と先取権

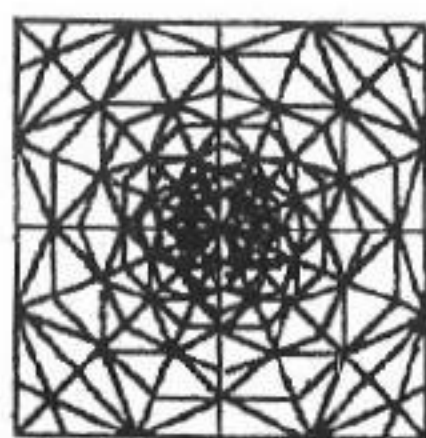
今回の標題は、大津の国際会議での発表のものと同じだが、両者の内容の間に相似性はない。えーい、ややこしい。会議での発表は数学的な話で、ここでの「相似性」は、だれそれさんのつくった作品とだれそれさんの折った作品は似ている、という話だ。

ほぼ同じ作品がひとや時期を違えて独立に生み出されることはたしかにある。最近もわたし自身がそんな経験をしている。エルンスト・ブレウNSTEIN氏の「無限につづくつまみ折り」という作品の写真を見て驚いたのだ。よく見ると違うのだが、一見してわたしの「バベルの塔」にそっくりなのだ。技法の応用といったものではなく、まったく独立に同じようなことを考えたのである。こうしたケースは幾何的なおりがみの場合に多いが、一見幾何的でなくても、背景に隠された幾何がよく似た作品を生むこともある。ある種の作品の場合、それが生み出されることは、幾何の定理や科学の法則が発見されるのに似ている。そう、それはまさしく「発見」だ。

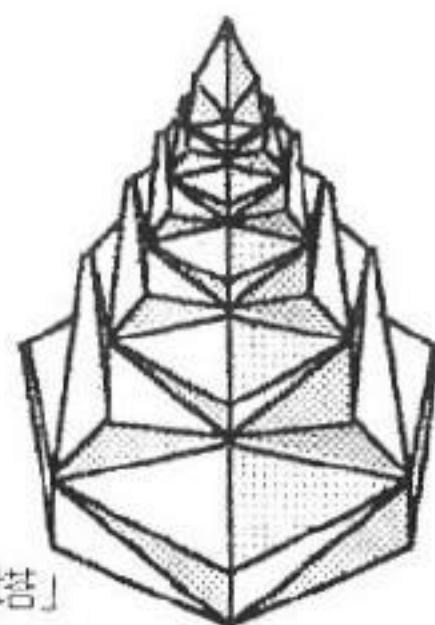
ピタゴラスの定理はピタゴラスや彼の教団が「つくりあげた」のではなく、彼らが発見したものだ。それは発見される前からすでに「あった」のであり、発見されるのを「待っていた」。哲学や認識論の迷路に入り込まない限り、そう考えてもよい。それと同じように、例えば園部式ユニットは園部氏によって発見されたものだ。18世紀の資料「欄間図式」(高木智氏所有)に園部式ユニットらしきものの図があり、園部氏の発見は再発見かもしれないという指摘もある。それがあの作品の価値を減ずるものだと言っているのではない。それとは逆に、「ひとがつくった手

の込んだ」ものよりも「必然的」な作品であると言いたい。

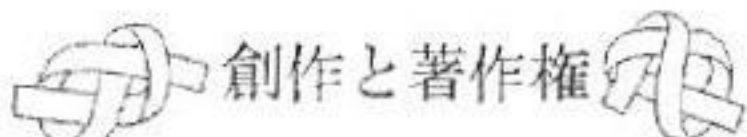
作品に対する作家性やオリジナリティーの強い主張が、作品の普及と幅広い応用の障害になることも、「発見」という考えとあわせて述べることができる。基礎科学の世界では、発見された定理や法則は「シュレディンガーの方程式」や「オイラーの定理」のように発見者の名前を冠するなどして栄誉を讃えられる。が、多くの場合ただそれだけだ。定理や方程式を使う際に使用料が発見者に支払われることはない。すべてのひとに開放することの代価は、発見したひとを高く評価することだけであ



「バベルの塔」



る。発見は僥倖の場合もあるが、それでもきちんと評価される。さらには「偶然に出遭う能力」を意味するセレンディピティーなる考え方まである。誤解のないように付け加えておくが、おりがみの場合もすべてこれにあてはまると言っているのではない。「おりがみ作品に創作というべきものなどない」と短絡されても困る。ただ、「発見的作品」の場合も発見者の名誉を大切にすべきだ、ということを強調したい。



創作と著作権

一方、発見ではなく創作という言葉 キーワードにすると音楽の場合が参考になる。山口真氏も常々言っているが、1小節以上引用すると作曲者に印税が支払われるシステムのことだ。おりがみの世界では著作権は基本的に出版物だけにあり、個々

の作品にはない。個々の作品に著作権(あるいはそれに類するもの)を設定することは可能なのか、何をもってオリジナルを定義するのかを考えれば、極めて難しい議論になることが想像される。しかし、作品を商行為に使用する場合、これは考慮すべきシステムであり、あきらかにそれを問題にすべきケースもすでに起きている。

科学先取権型と音楽著作権型、幅広いおりがみの世界を反映し、どちらがよいとは一談には言えないものだ。そもそもこうした問題は、音楽家や科学者といった職能の成立なくしては語れない。アマチュアの多いおりがみの世界にこれはあてはまりにくい。

それでもたしかに言えることもある。整理してみてほとんど当たり前のことなので自ら鼻白んだほどであるが、斜に構えずここに書き記しておこう。一、同様のものを既につくったひとがいることが分かった場合、そのひとに敬意を示すのは当然である。二、ひとの作品を参考にした場合、それを明らかにするのも当然である。三、ひとの作品を評価することが、逆に自分のオリジナリティーを鍛えることになる。この三つ、わたし自身肝に銘じたい。

〇おわりに

おりがみの基本にある「物」、技法や折りの工程ではない「物」に目を向けて、それをひととおりに見直そうと書き始めた「折紙博物誌第2部」、今回は「紙の種類」を取り上げようとの心積もりでいたのだが、浮かぶ言葉の行き着く先が馬鹿のひとつ覚えというやつか、第1部の結論めいた1行と同じ、すなわち「紙の性質を無視しない」という一言になると思い及び、一転針路を変更し、上記のごときテーマでこの連載の最終回とすることにした。←前号の羽鳥(公)さんには及ばないが長い文章だ。長い文章を「ざる蕎麦の如き文章」と評した(褒めていた)のを読んだことがあるが、羽鳥(公)さん、さすがに蕎麦屋である。さて、最終回と言っても、この連載、題を「おりがみ・悪魔の辞典」と改めて、蕎麦のごとくまだ長くつづく。

「おりがみ」は 翻訳語ではない】(承前)

D. リスター氏が「おりがみ」翻訳語説を提唱されたことについて、「そうではない」という結論だけは大津の国際会議で発表しておいたのであるが、それを論証した論文が出版されるまでにはまだ時間がかかるらしいので、この欄で関連した問題をぼつぼつ書こうと思っていたのであるが、季刊『をる』の最近号に桃谷夫人の「「折り紙」はドイツの翻訳」という文章が載ったのを見ると、そののんびりとはしていないようだ。しかし、『をる』誌には反論を載せられそうなので、ここでは、今回「桃谷夫人の文章には小学校関係の資料が全く欠落していること、幼稚園関係の資料についても量が極めて少なく、しかもその資料の範囲内だけでも何となくそのような結論が出るのか理解不能の箇所があることをいうに止めておきたい。

【幼稚園と小学校】

前回で述べたように、幼稚園では、明治9(1876)年に創立されたお茶の水の付属幼稚園以来、折り紙は漢字で「摺紙」(ときに「疊紙」と書かれ、訓読されて「たたみがみ」5年後には「紙摺み(かみたたみ)」と改訳されたのだが、その後もずっと「かみたたみ」「たたみがみ」が使用されていた。昭和9(1934)年に書かれた『日本幼稚園史』(東京女高師教授倉橋惣三と同保母新庄よしこ共著となっている)に「折物」という語に「今のたみ紙である。」という説明をつけているから、そのころになっても依然として、この権威ある幼稚園では「たたみがみ」を使っていたことがわかる。

高等小学校に手工科が設置されたのは明治19(1886)年で、尋常小学校に設置されたのはその4年後であったが、こちらの部門では初めから「折紙細工」「折紙」という言葉が使用されている。幼稚園の保育法がドイツ系であったのと比べて、小学校の手工科はスウェーデンやフランスで進んでいたハンディクラフトの教育の影響を強く受けていたとい

うこともあり、あるいはよくあるセクショナリズムの関係もあったと思うが、この用語の違いには幼稚園保母たちの女性社会と、小学校手工科教師の男性社会の差を無視するわけには行かないと思うのである。この問題はまた別に考えたい。

おりがみ庵

ひとりごと
岡村昌夫

第17回

奈良女高師教授森川正雄著『幼稚園の理論及実際』(増訂版が昭和4年に出ている。初版は未見である)に次のような記述があつて興味を引かれた。「吾々はとかく伝来の因襲に捉はれる弊があつていけない。…一体、幼稚園でする仕事といふものは小学校でする手工と同じ類のものである。それに名前だけが違って居る。…内容が同じで名前だけが違って居るのはよくない。…名前が違ふものだから連絡が取りにくくて誠に遺憾である。」

【フレイベル式折り紙 への偏見】

フレイベル式の折り紙は幾何学的思考法を養成する目的がはっきりしていたので抽象的な要素が強く、従来我が国で主として母から娘へと伝承されてきた折り紙とはかなり異質なものと意識されたい。言い換えれば、日本にはもっと優れた折り紙文化があるという一種の偏見が、フレイベル折り紙の真価を見失ったと思う。他の「恩物」ではドイツ式を重視していたらしいのに、少なくとも「摺紙」に関しては、我が国最初の「恩物」の図を載せた『幼稚園法二十遊嬉』(お茶の水付属幼稚園監事、関信三著、明治12

年)によると第十八摺紙法に描かれた少女が折っているのは鶴で、テーブルの上にはフレイベル式模様折りが一枚と熨斗が置いてあるのである。

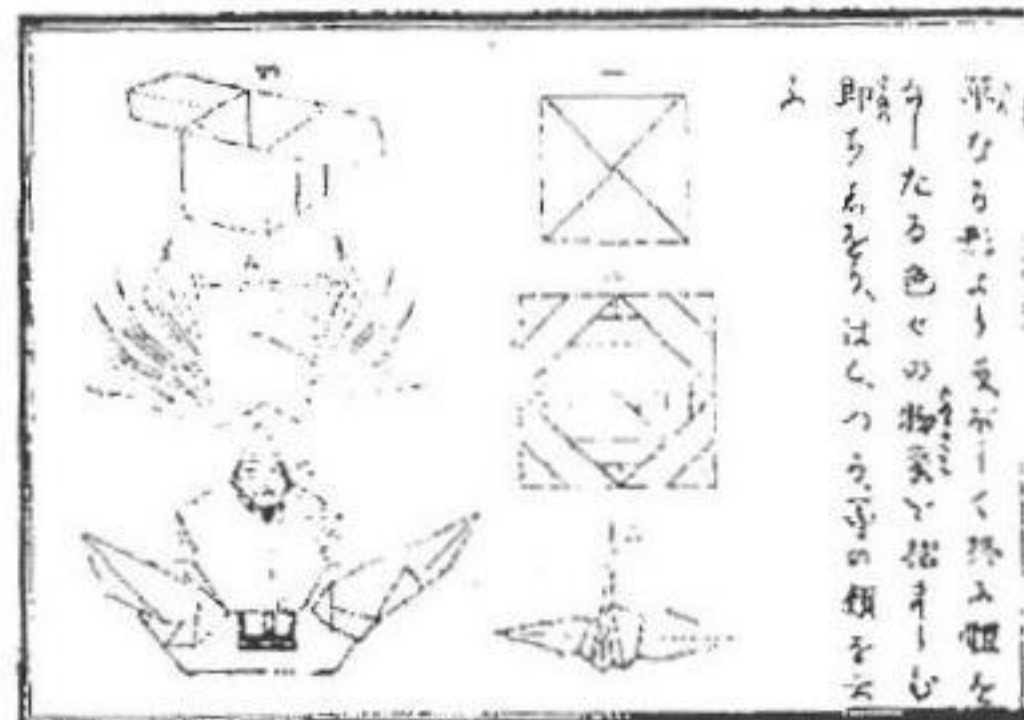
前号で紹介したように『幼稚園保育の手引』(明治20年)に「紙摺ミ」について「此恩物は…曾て我国に行はるる折紙の仕方と同じく…」の後に「即ちしをり、はこ、つる、等の類を云ふ」とあって6種の折り紙完成図が載せられている

が、図版のごとく、糸入れ(たとうの一種)、フレイベル式模様折り、鶴、三方、カニ、天神さま、であつて、まさに「かつて我国に行はるる折紙の仕方と同じく」という内容だったわけである。この問題もまた別に論じたい。

【なぜ「たたみがみ」か】

ところで、フレイベル式折り紙の中心をなす模様折りは、きわめて抽象的に作られたものだから、それぞれに「名前」がなくて説明が困難だが、強いて我が国の伝承の中で似たものをさがせば、「たとう(疊紙)」の一種で、「折りすえ」の蓋の部分に模様を折り出したものに近いということができよう。明治の人も同じ連想をしたはずで、「たとう」すなわち「たたみがみ」を西洋式幾何折り紙を指す「翻訳語」に当てたのではなかろうか。「疊紙」と書くと「たとう」と全く同じになってしまうので、漢語で「疊摺す」と用いる「摺」の方を主に使用するようにしたのではなかろうか。

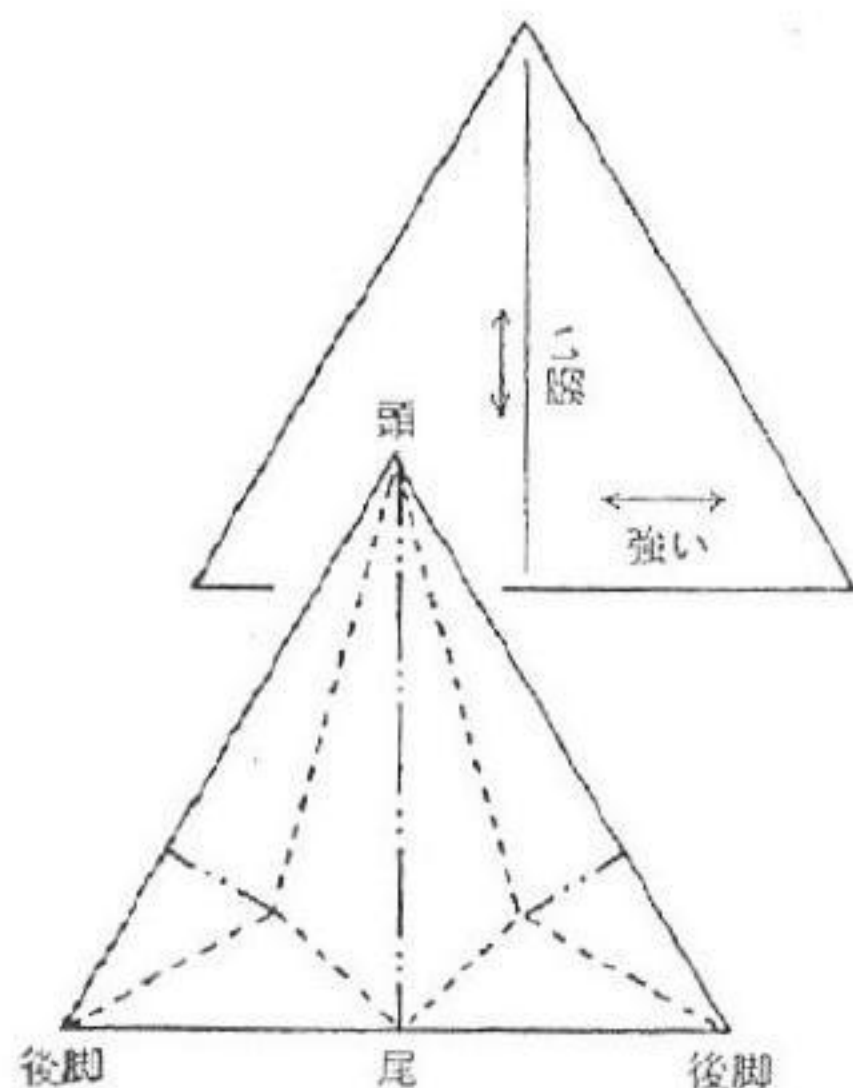
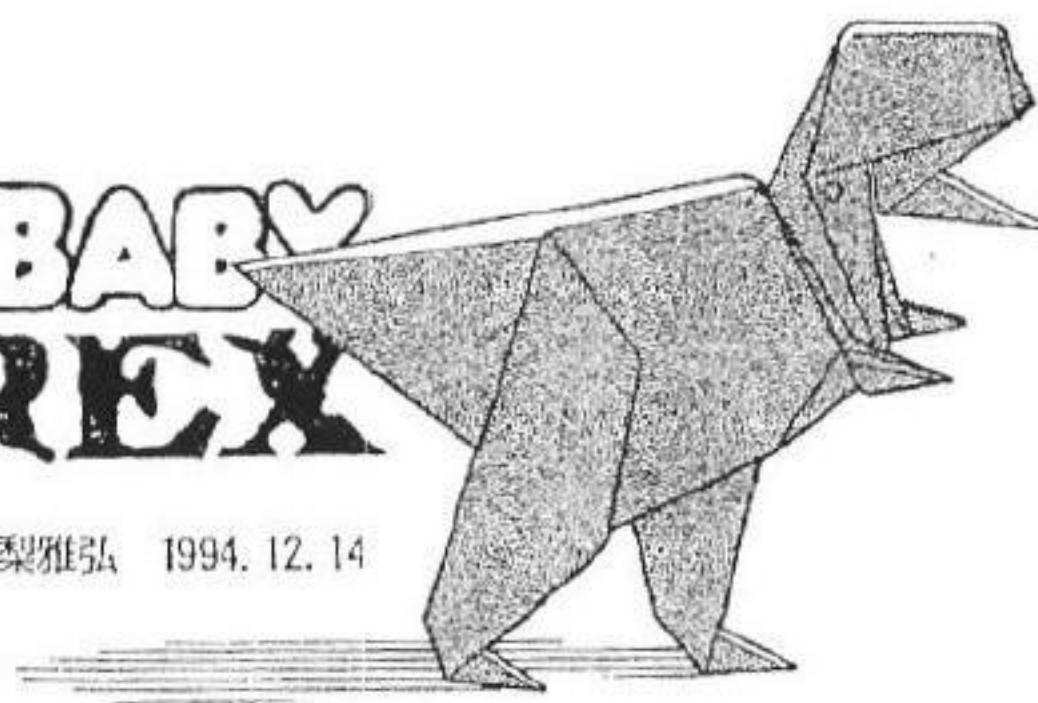
勿論「摺紙(しょうし)」と「折紙」は全く異なる性質のことばである。以下次号



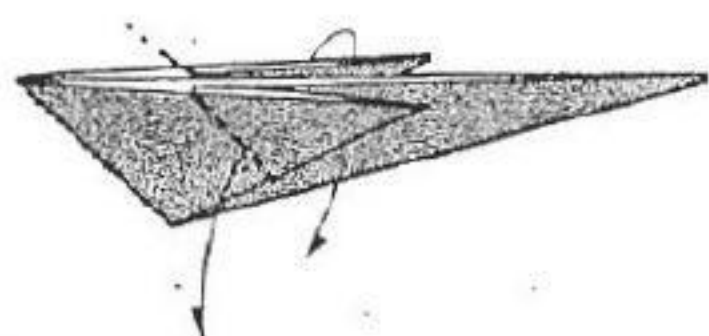
『幼稚園保育の手引』(明治20年)より

BABY T-REX

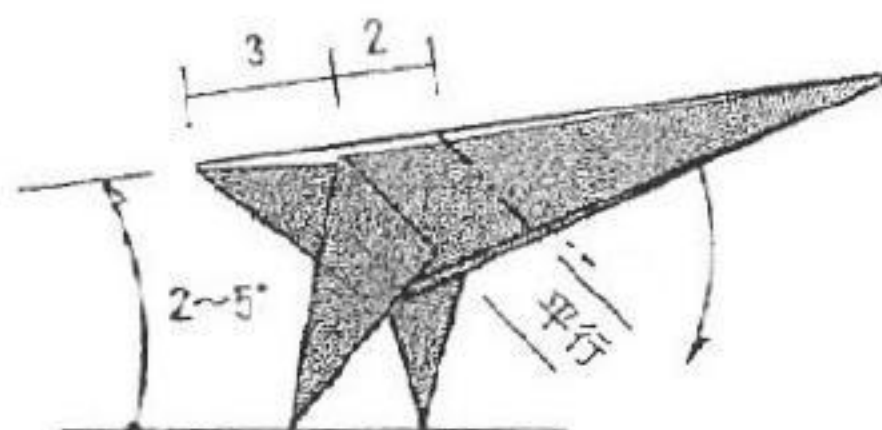
山梨雅弘 1994. 12. 14



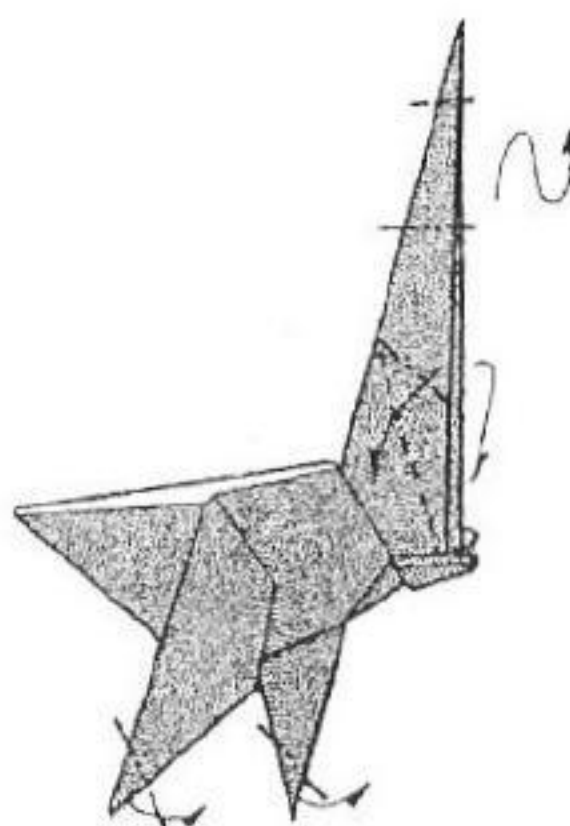
- ① 紙の目を横向きに、
正三角形を切ります
- ② 二等分折り
変形「魚の基本形」です
白が上面



- ③ 後脚の折り
④のようにずらして折ります

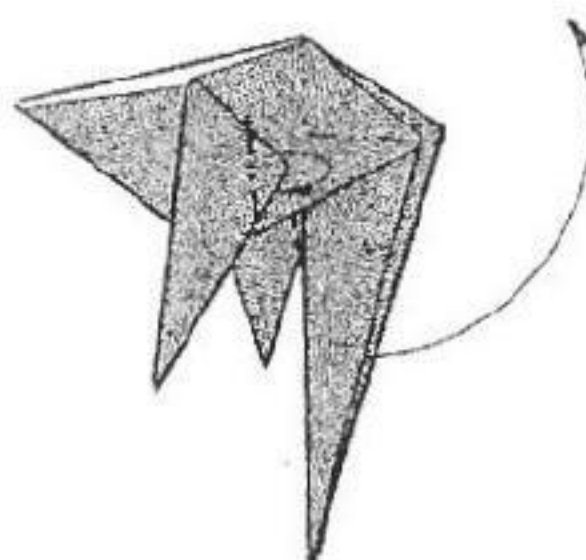


- ④ ファジーに中割り折り



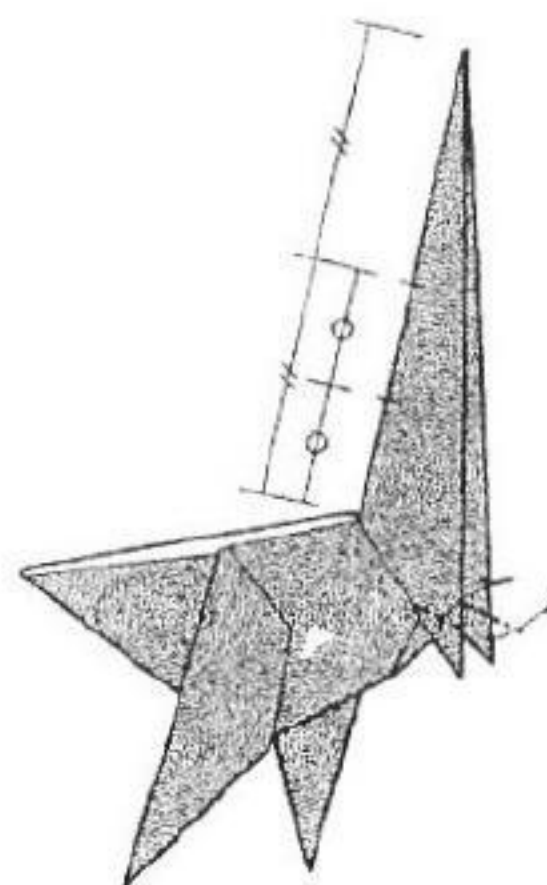
- ⑤ マークを基準に片面に折り
顔のシルエットを決め
すべて中割り折り
後脚を同じ向きに折ります

5min.
ORIGAMI

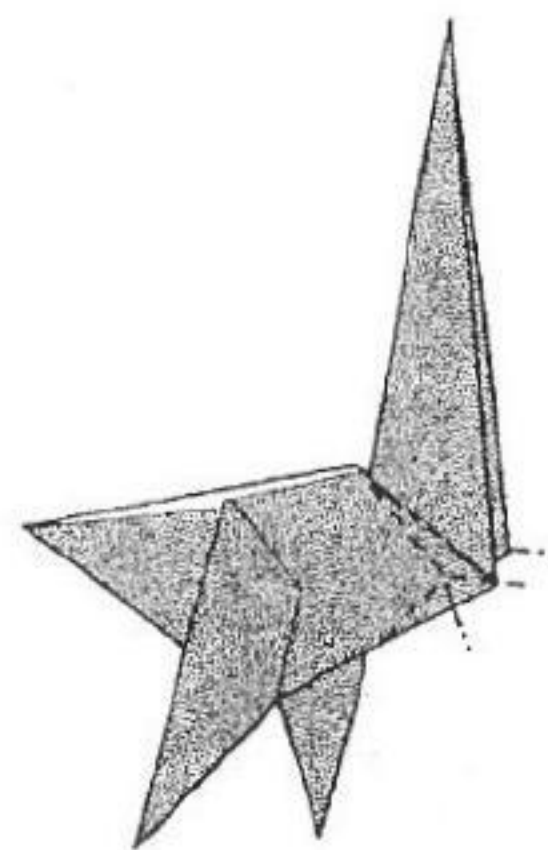


- ⑥ きっちり中割り折り
後脚前端を折り込む

- ⑦ 二本脚でハの字立ち
○を開くと吼えます
オオォーン



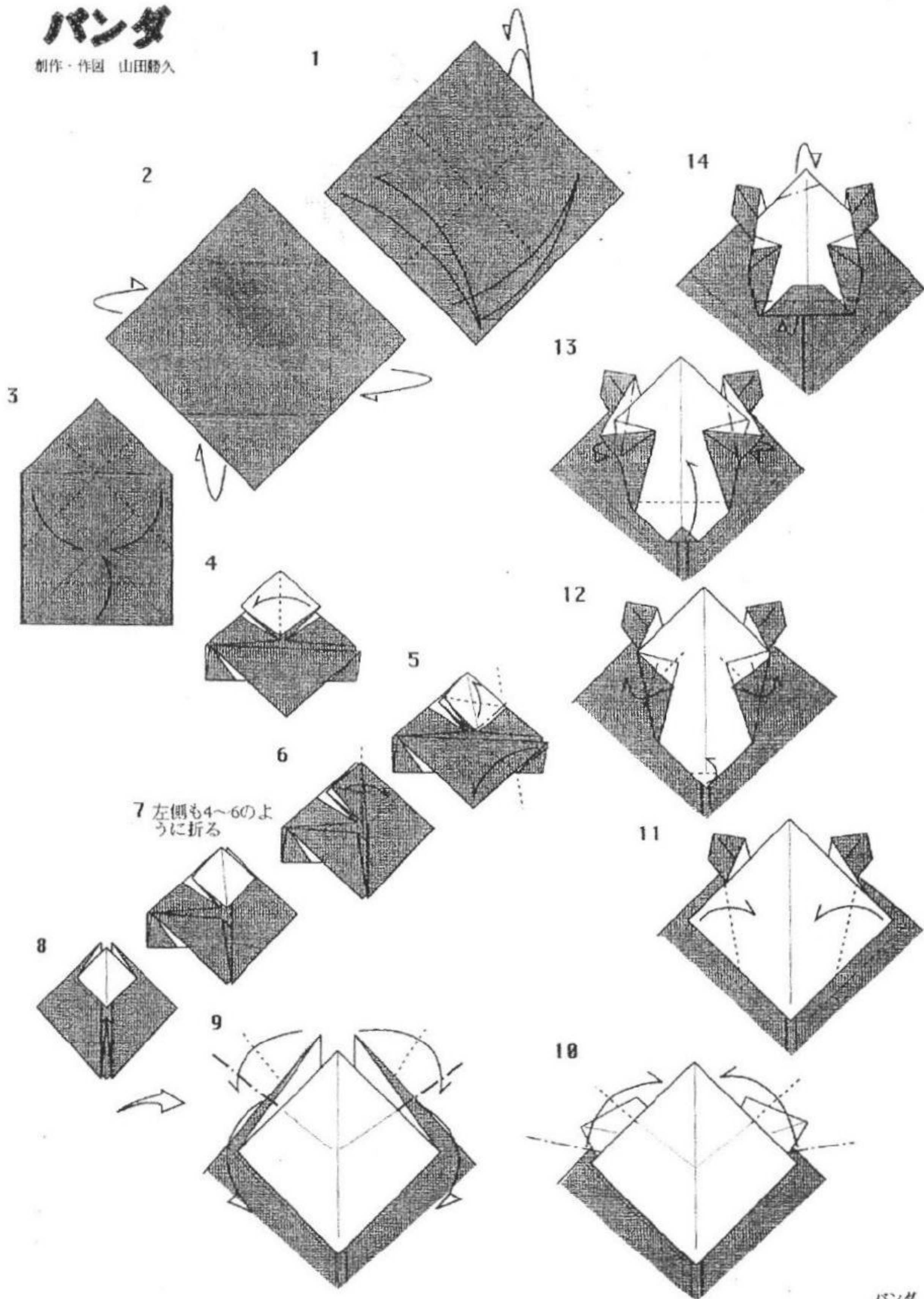
- ⑧ 図の等分点をマーク
前脚は折り上げるだけ

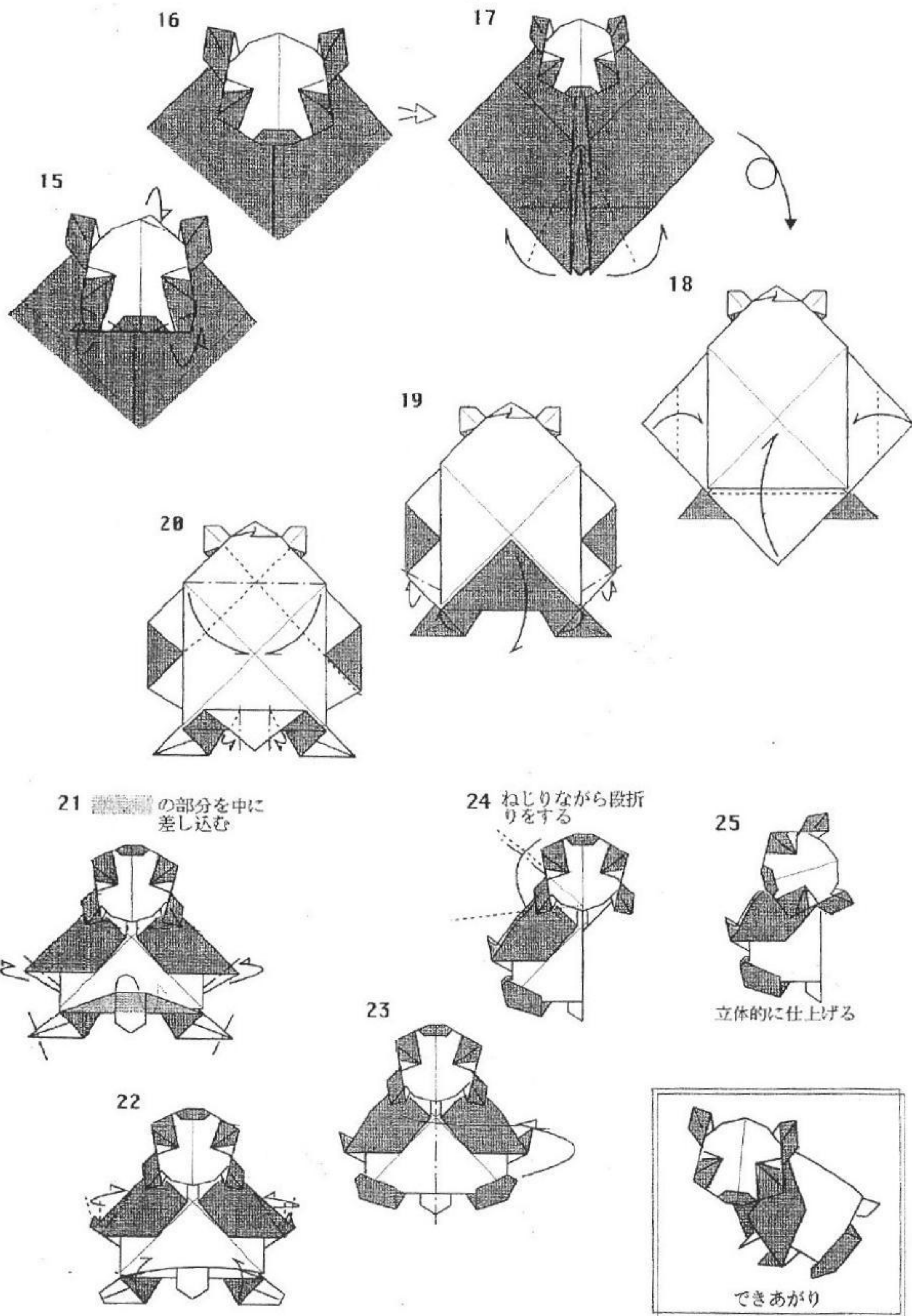


- ⑨ ツマミ折り
高井さん流ティラノの
技法で左右とも

パンダ

制作・作図 山田勝久





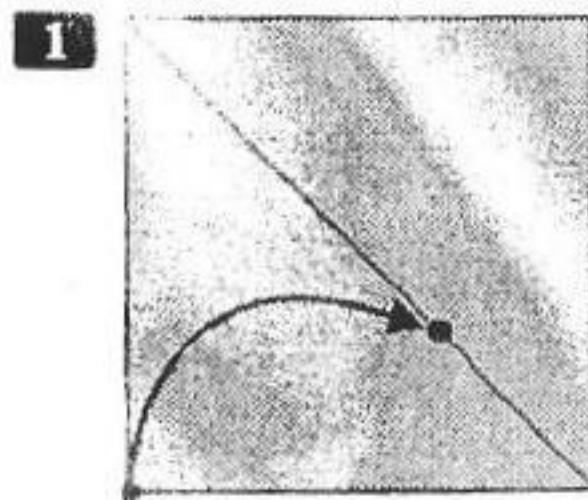
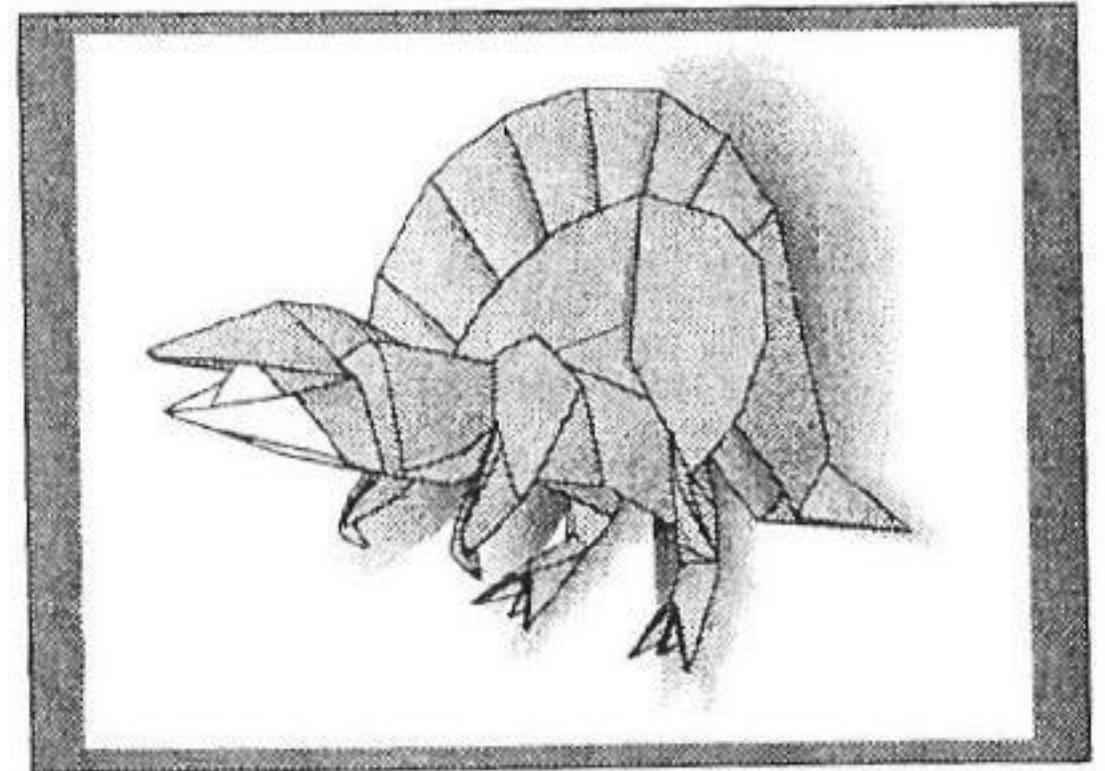
料理長のお褒め料理

スピノサウルス [前編]

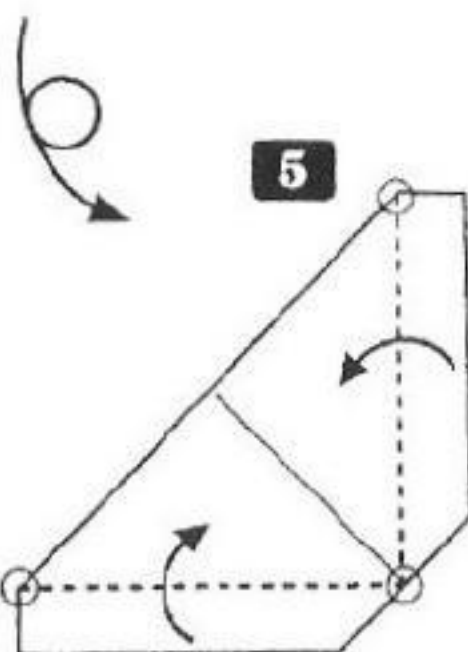
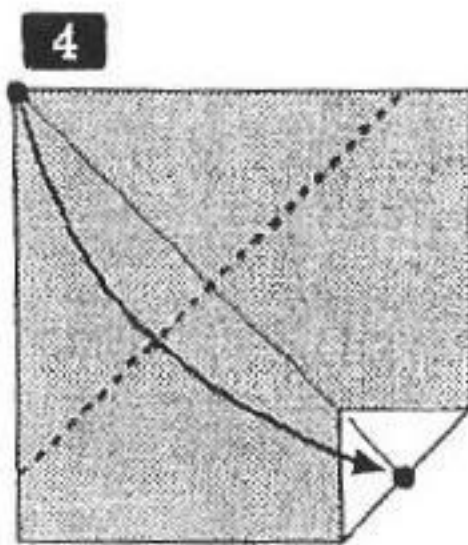
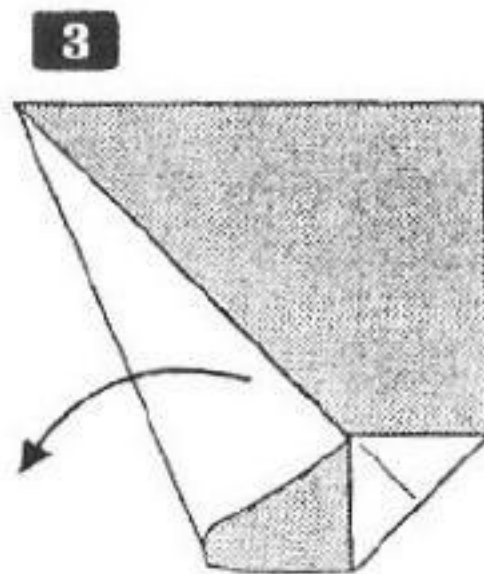
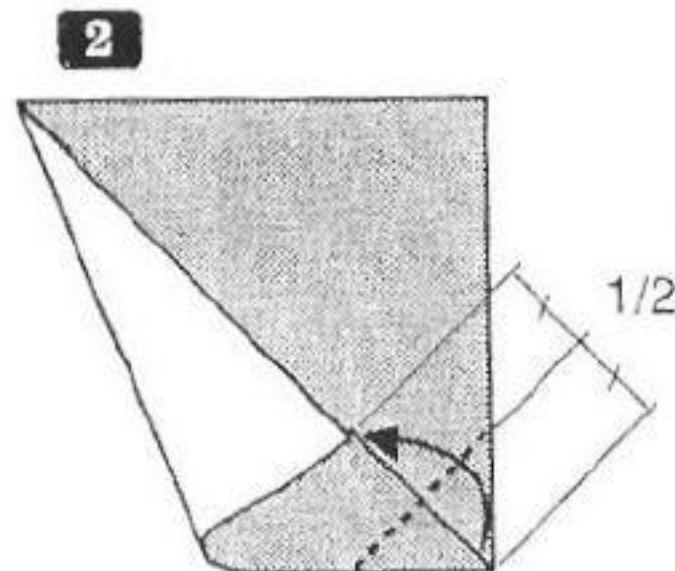
吉野 一生 制作 1993年11月1日
作図 1994年11月13日

Spinosaurus [part 1]

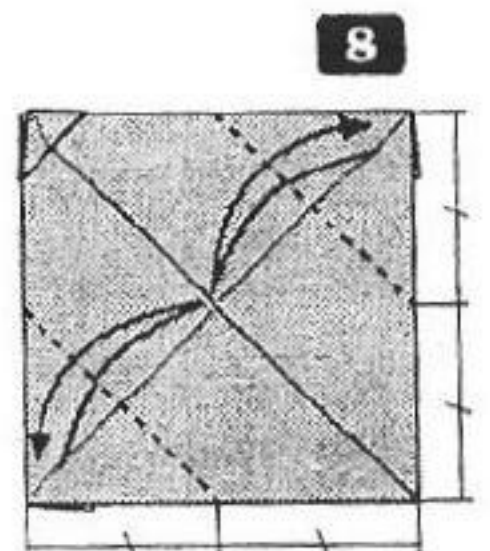
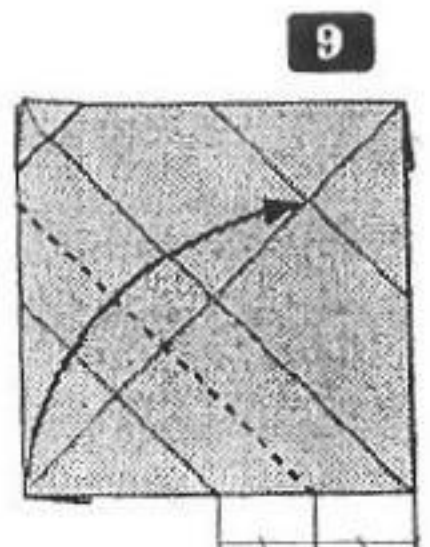
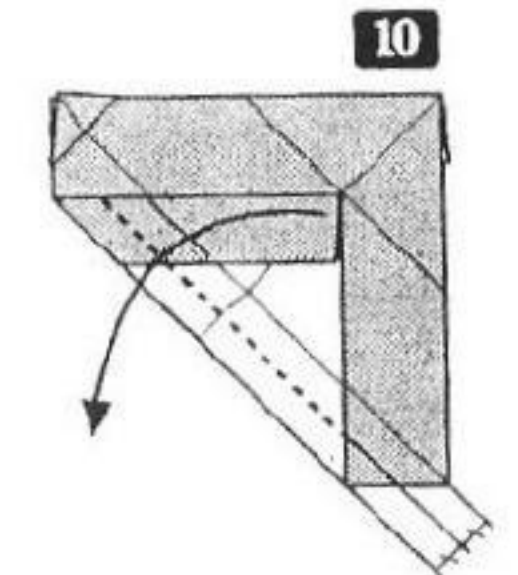
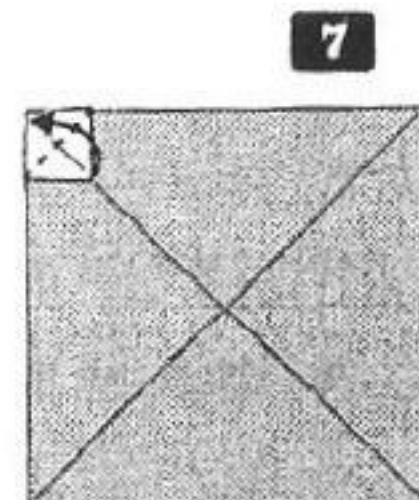
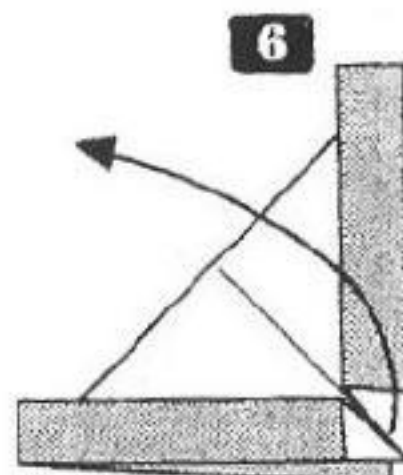
by Issei Yoshino Create 1-NOV-1993
Diagram 13-NOV-1994



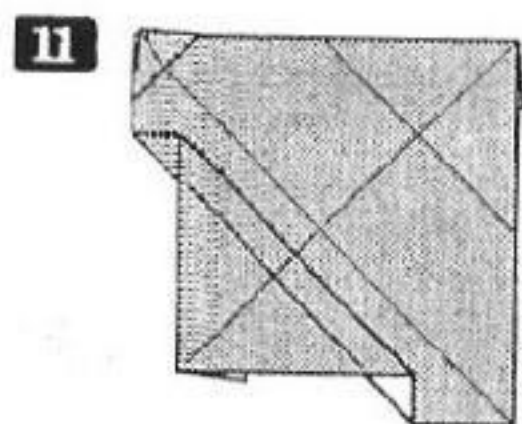
中心線に軽く合わせる
Bring the corner to the
center line softly.



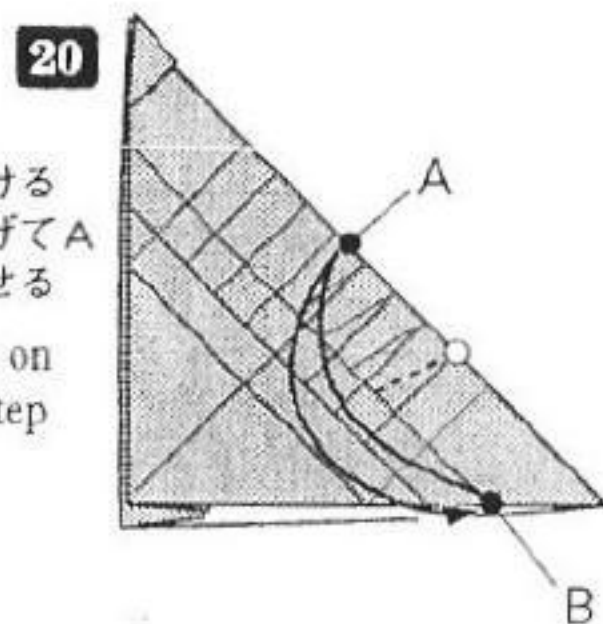
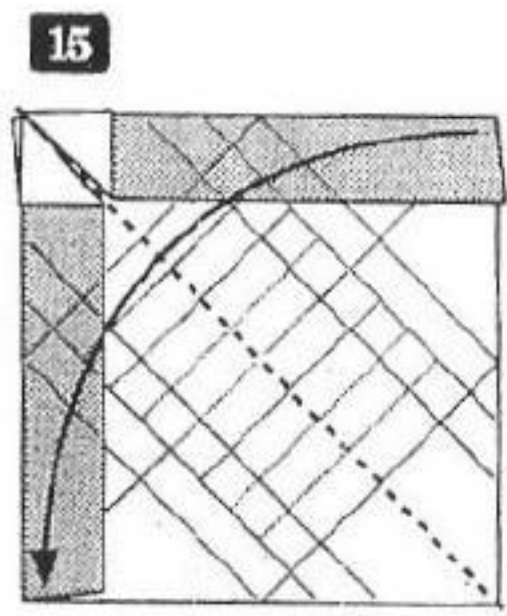
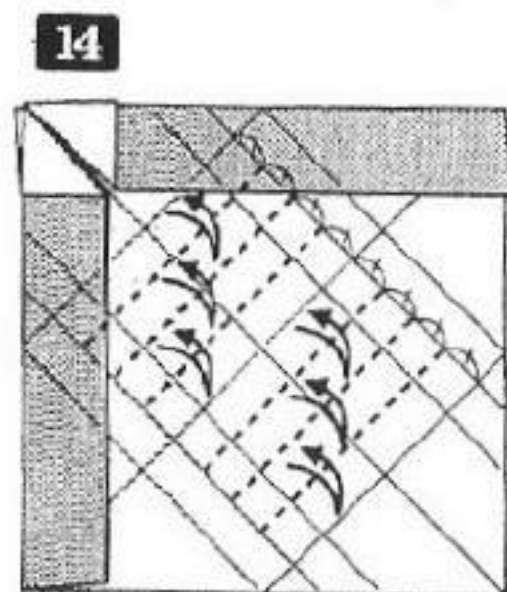
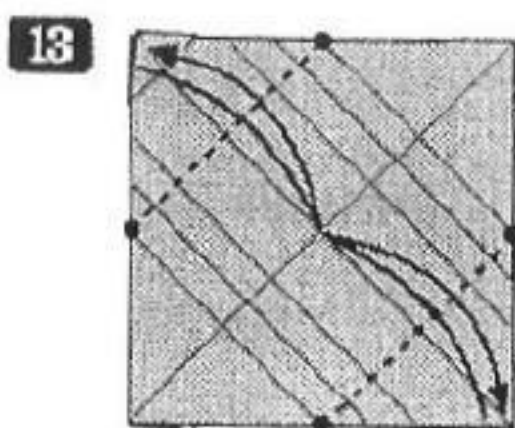
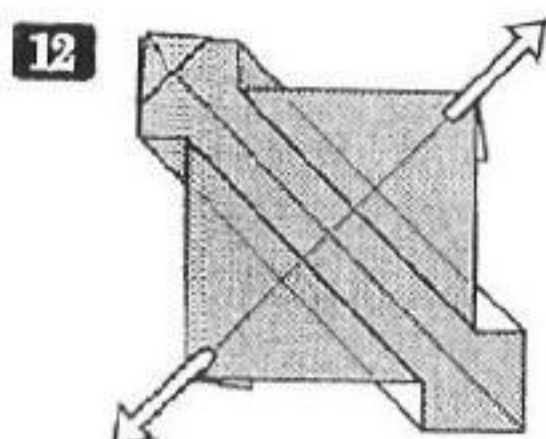
裏の辺に沿って折る
Fold along the edges behind.



中心に合わせて
折り筋を付ける
Make creases.

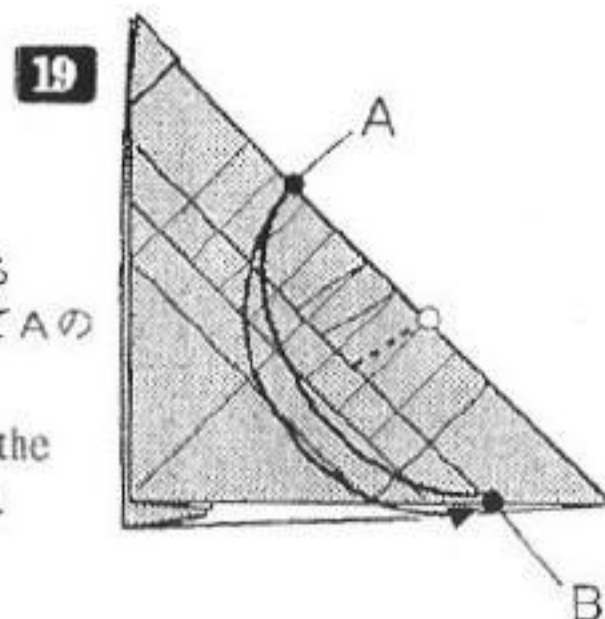


右側も 9 10 のように折る
Repeat step 9-10 on the right.



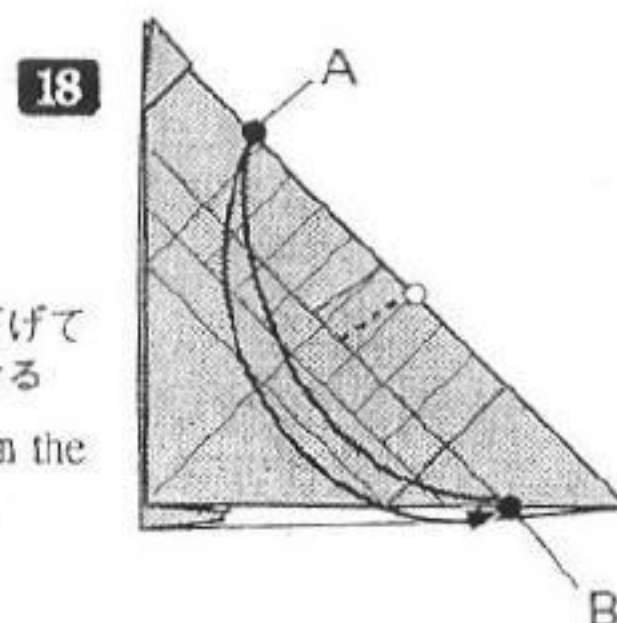
4つ目の折り筋を付ける
再び○の点を一つ下げてA
の辺とBの点を合わせる

Make a fourth crease on
the next point from step
19.



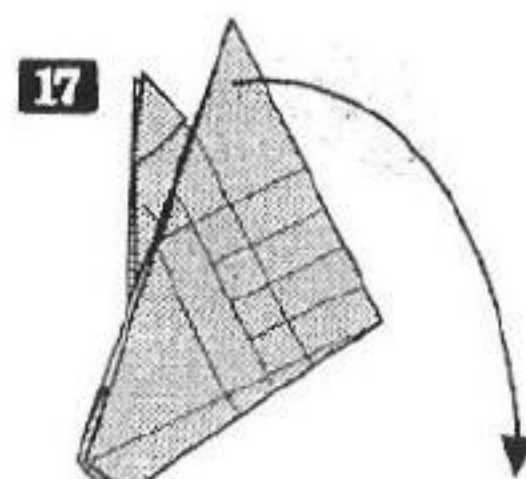
3つ目の折り筋を付ける
再び○の点を一つ下げてAの
辺とBの点を合わせる

Make a third crease on the
next point from step 18.

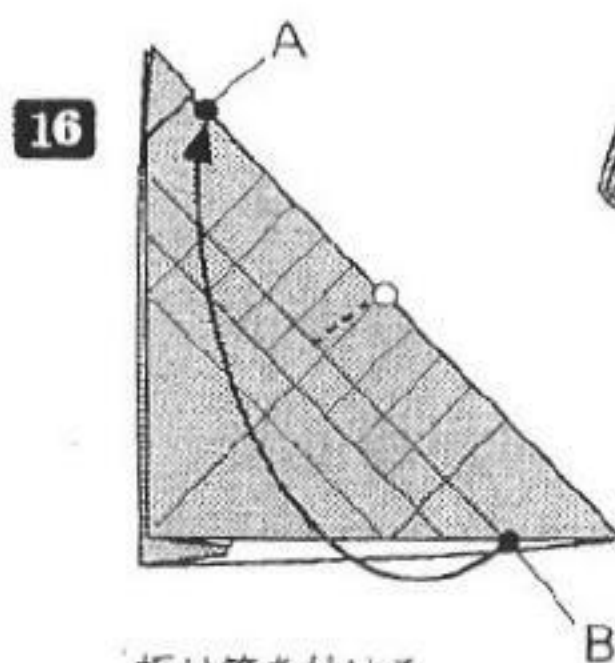


再び折り筋を付ける
○の点を 16 より一つ下げて
Aの辺とBの点を合わせる

Fold and unfold again on the
next point from step 16.

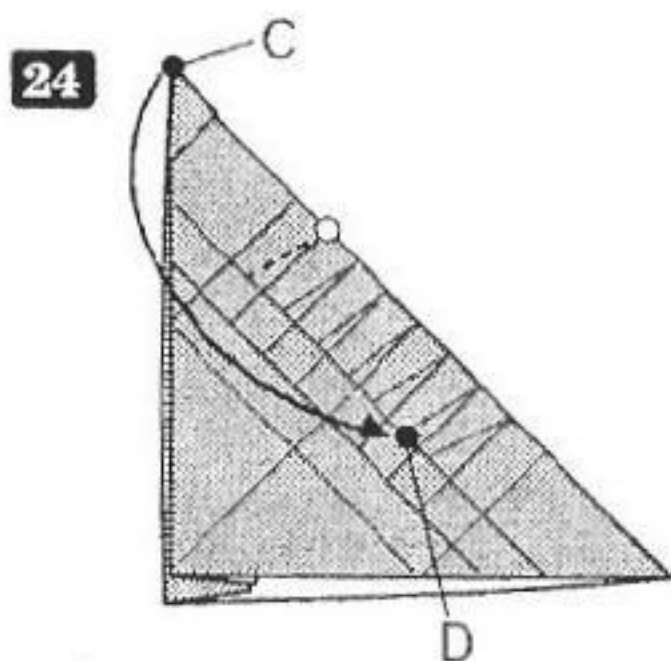
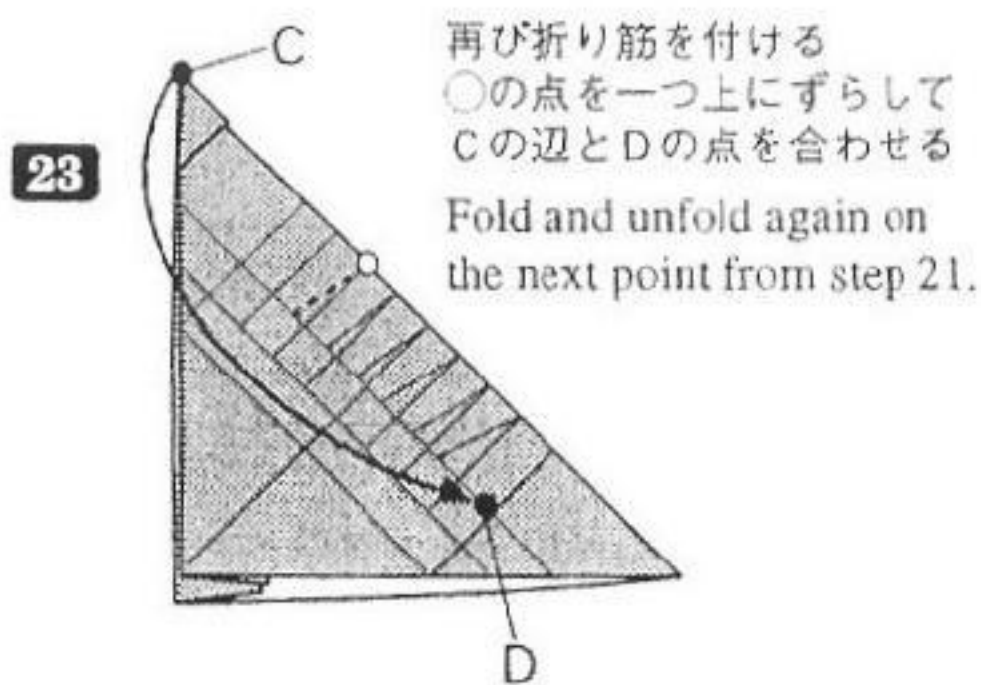
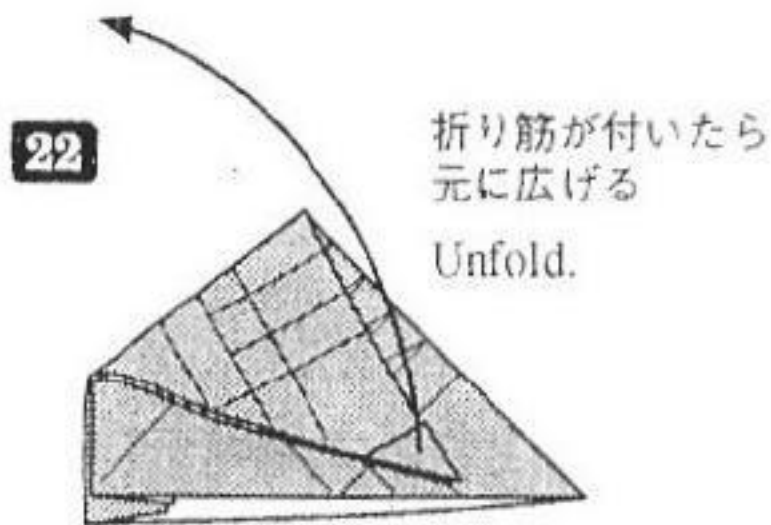
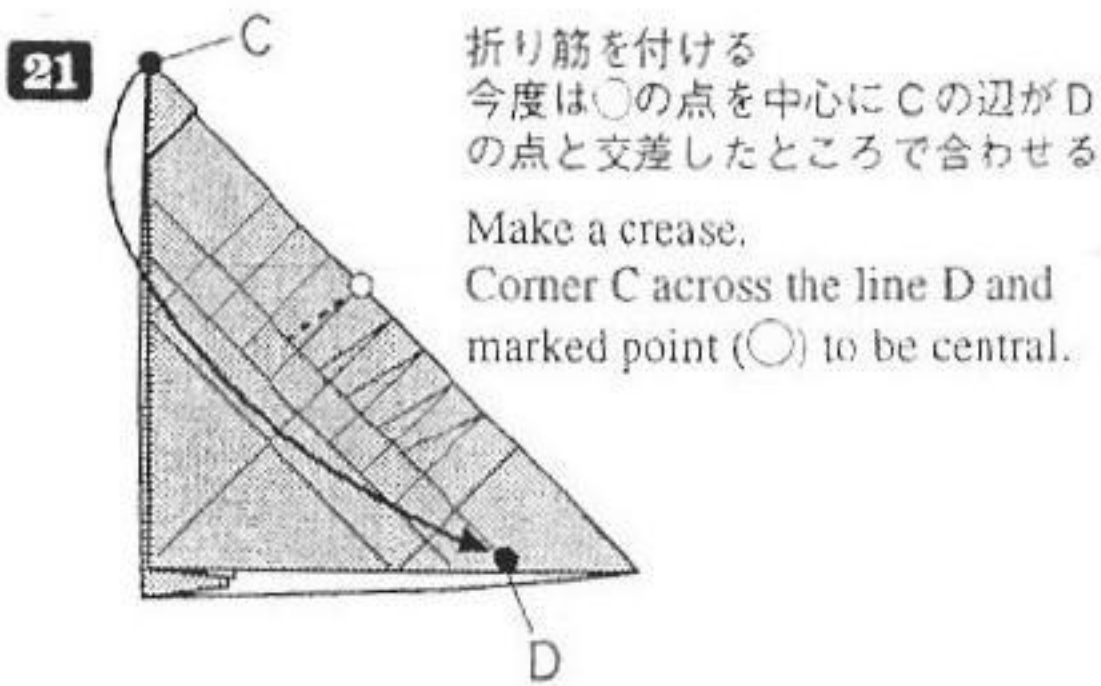


折り筋が付いたら
元に広げる
Unfold.



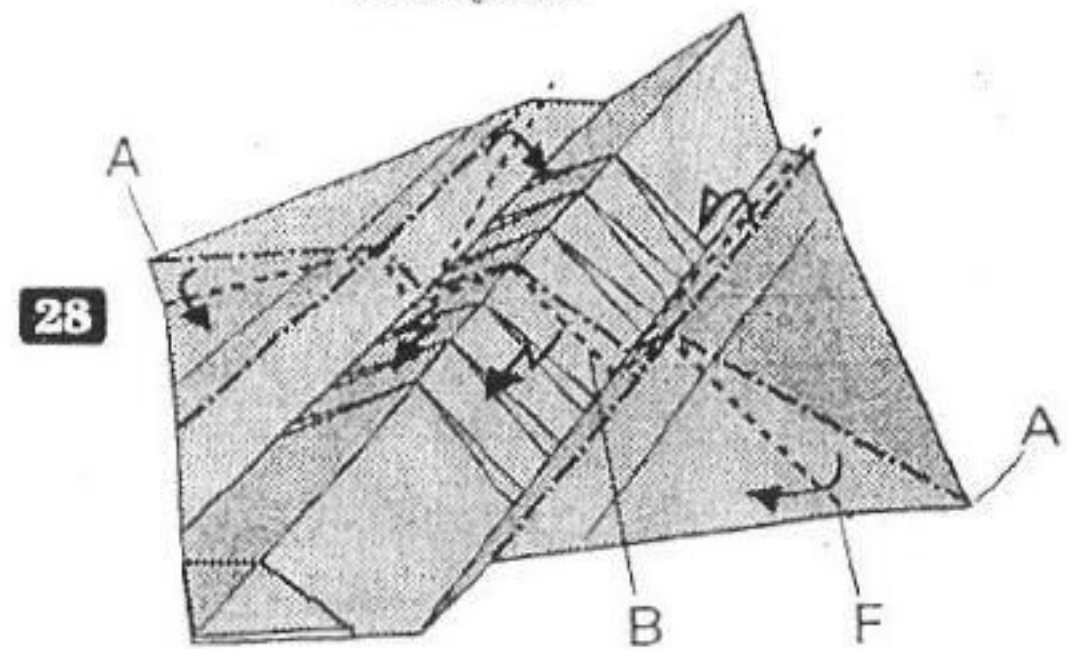
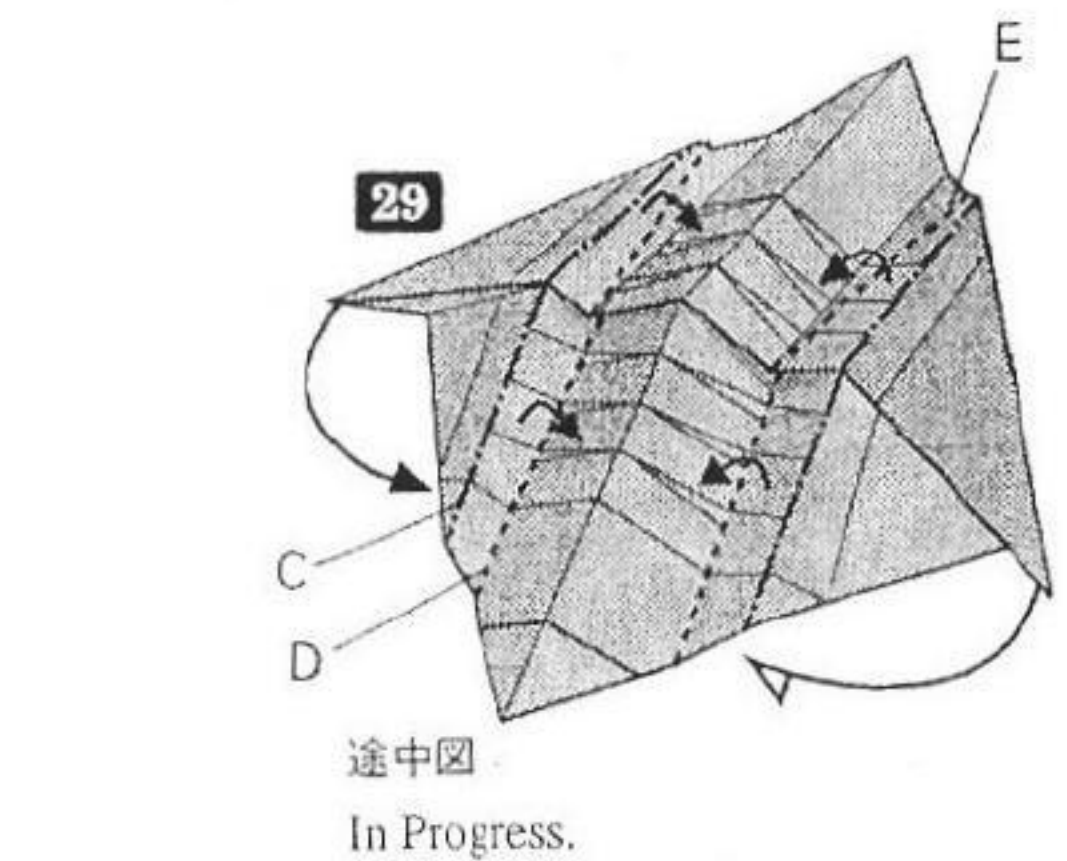
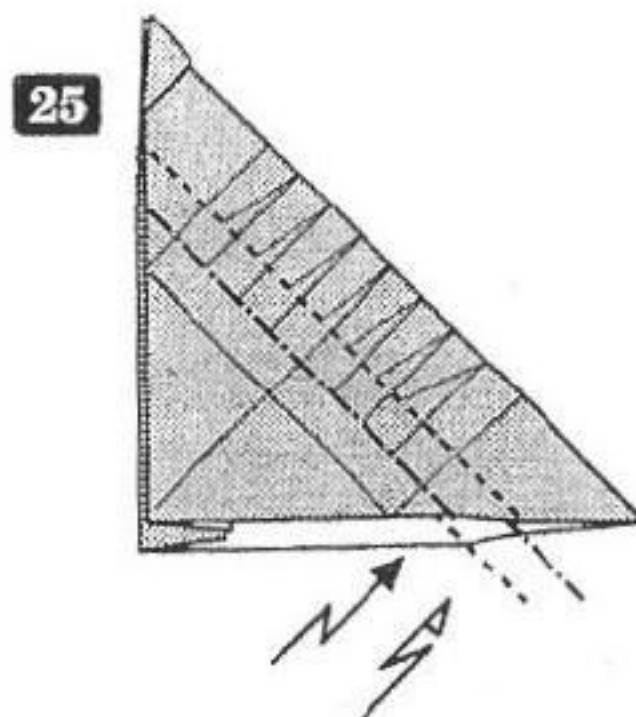
折り筋を付ける
○の点を中心にAの辺がBの点と
交差したところで合わせる

Make a crease.
Edge A across the point B and
marked point (○) to be central.



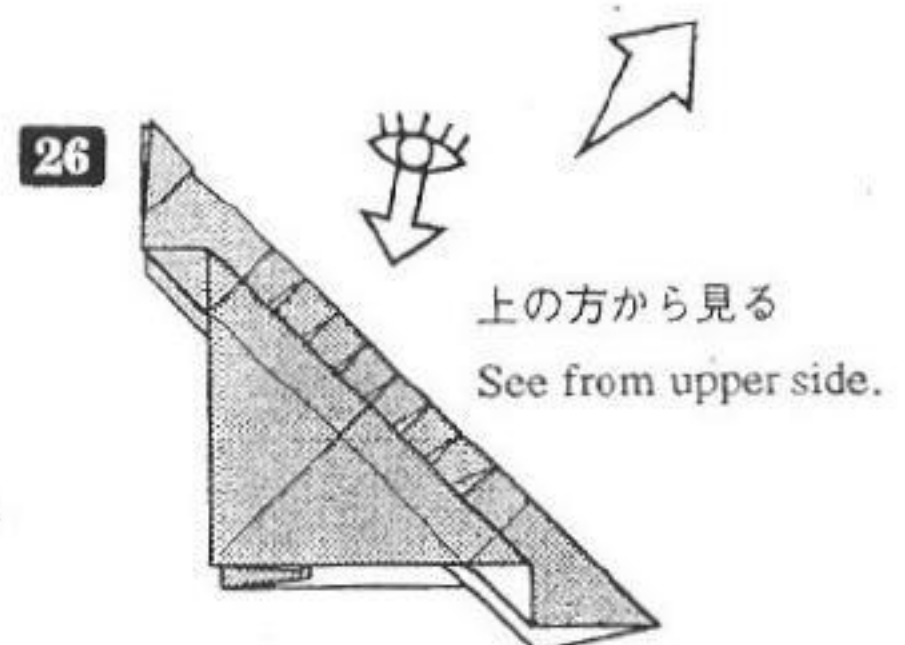
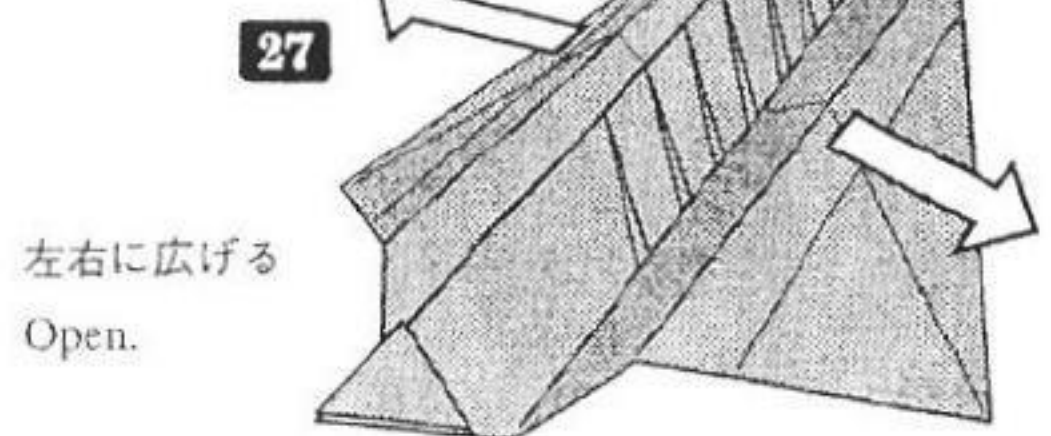
○の点を一つ上にずらして
Cの辺とDの点を合わせる
(この折り筋付けはこれで
おわり)

Make a last crease on the
next point from step 23.

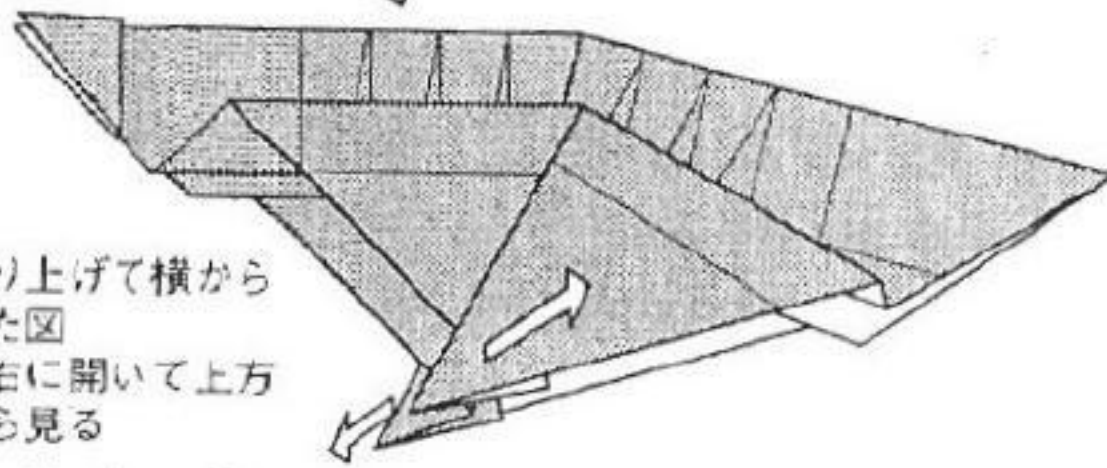


Aの角の対角線を山折り、Bの折り筋を谷
折りにして、段折りにする
その後、図 29 のC、Dの折り筋を折り、
左右から閉じれば、E、Fの谷折りの位置
が自動的に決まる

Mountain fold between the corner A-A
and make two crimps using the crease B.
After that, fold C and D like step 29 and
squash from left and right. Valley E,F are
to place automatically.



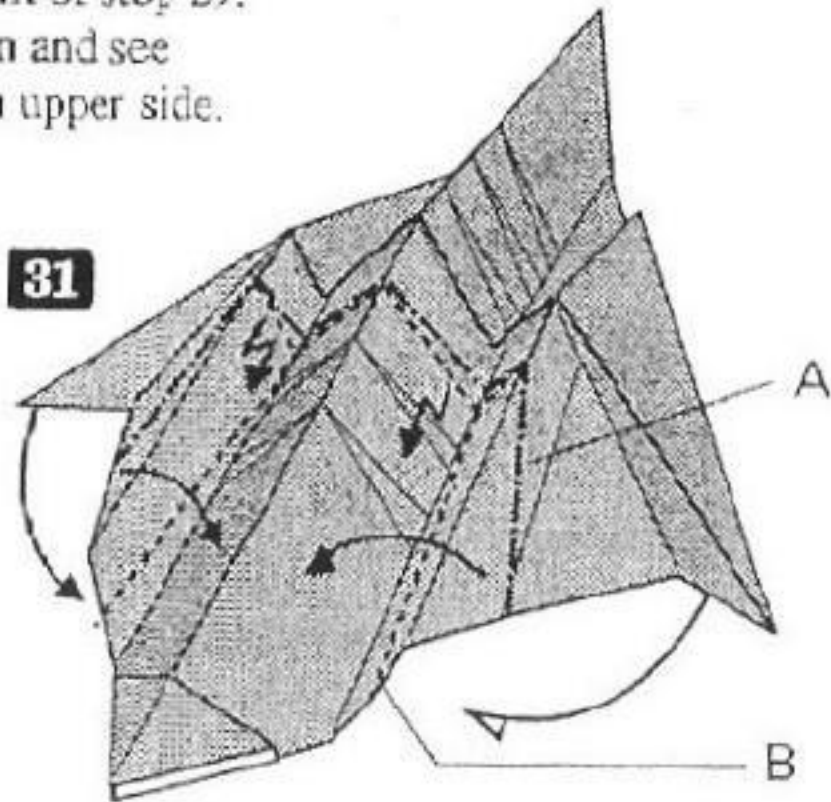
30



折り上げて横から見た図
左右に開いて上方から見る

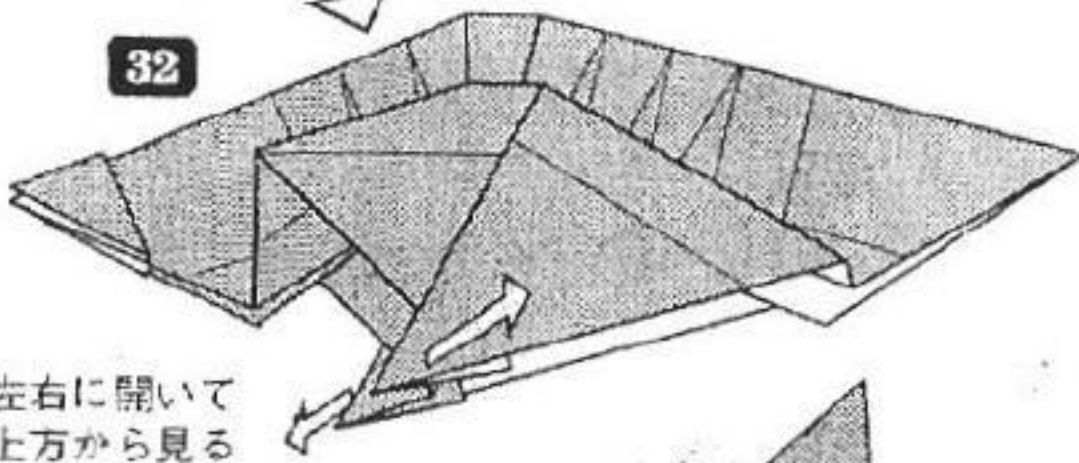
Result of step 29.
Open and see from upper side.

31



28と同様にすでにある折り筋を使って、段折りして左右から閉じる
28でせっかく折った折りが広がらないように気を付ける
A、Bの折りの位置は段折りに合わせて自動的に決まります
Make two crimps and squash like step 28. A,B are to place automatically.

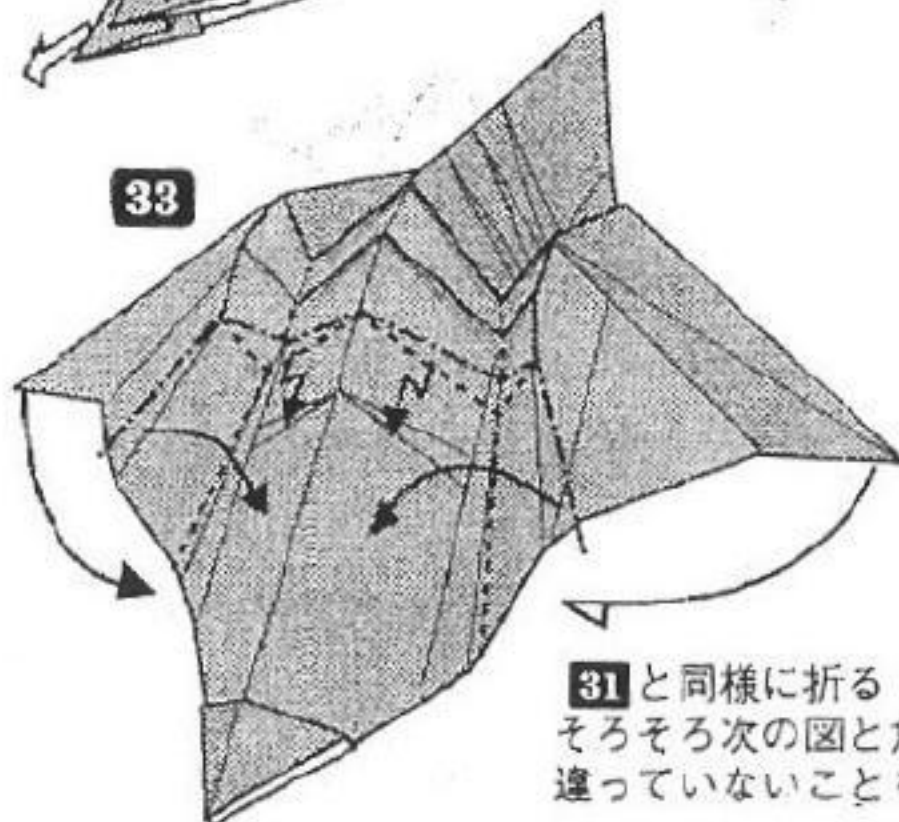
32



左右に開いて上方から見る

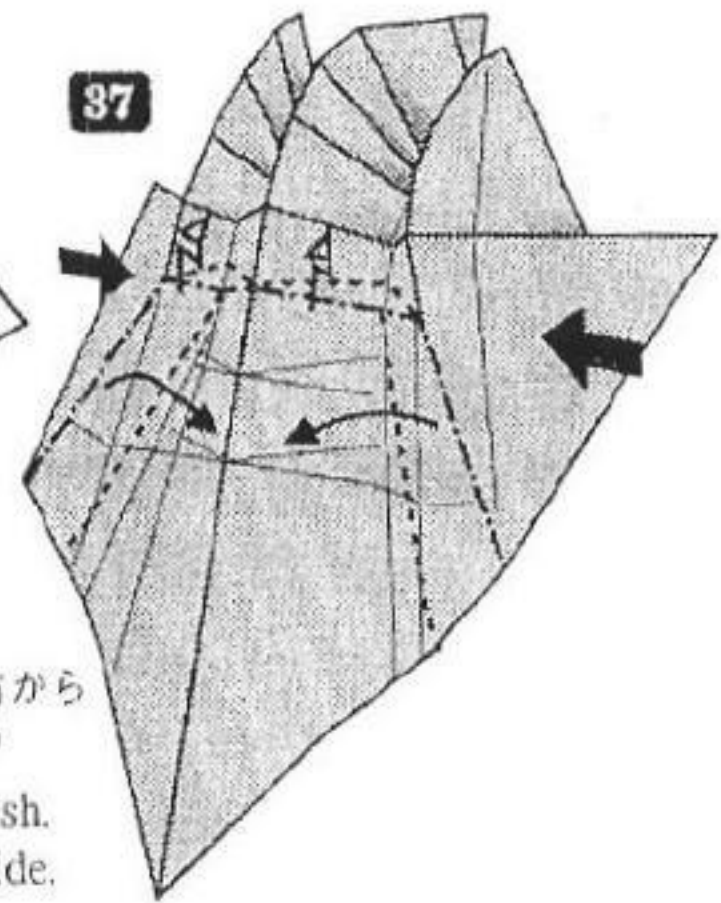
Open and see from upper side.

33



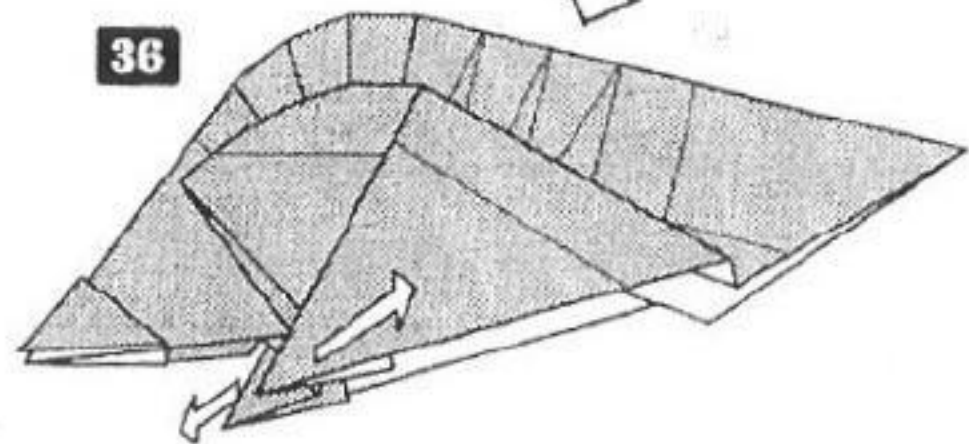
31と同様に折る
そろそろ次の図と角度が大きく
違っていかないことを確認する
Fold like step 31.
(Keep the back angle like step 34.)

37

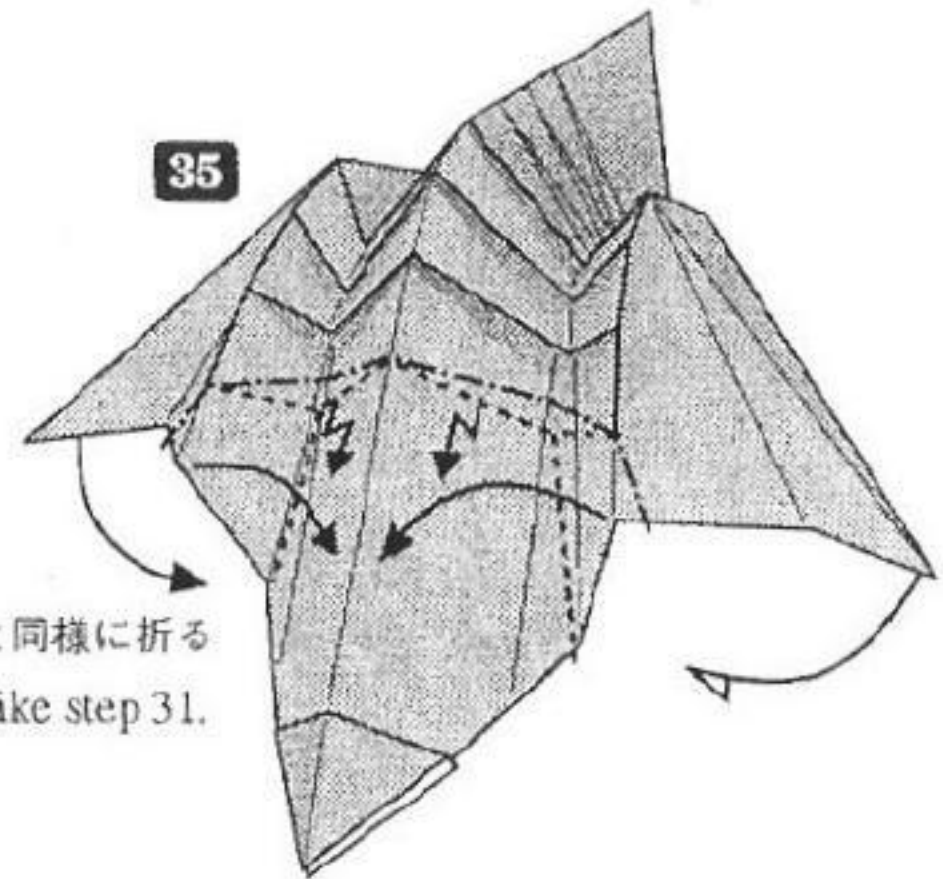


段折りして左右から閉じ横から見る
Crimp and squash.
See from left side.

36

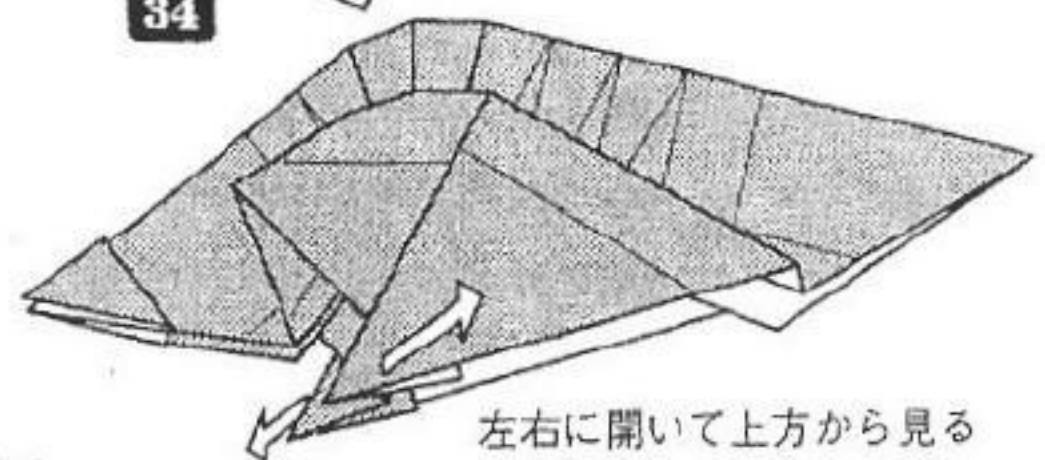


35

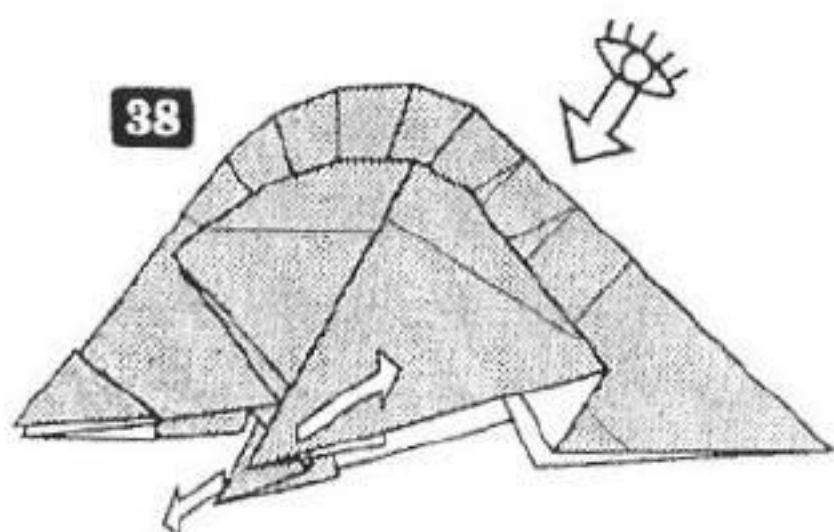


31と同様に折る
Fold like step 31.

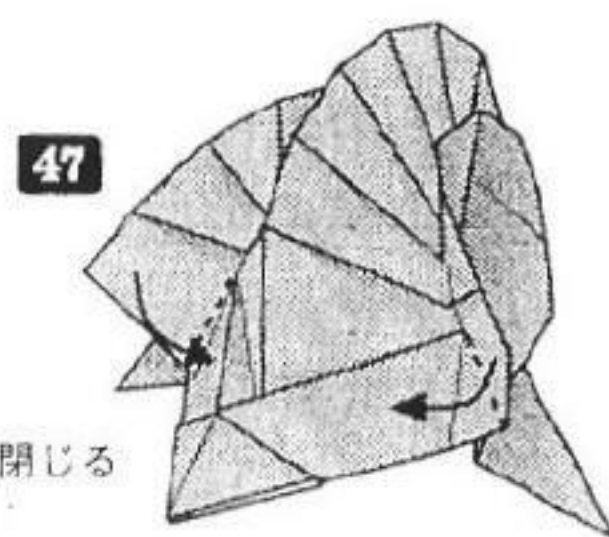
34



左右に開いて上方から見る
Open and see from upper side.

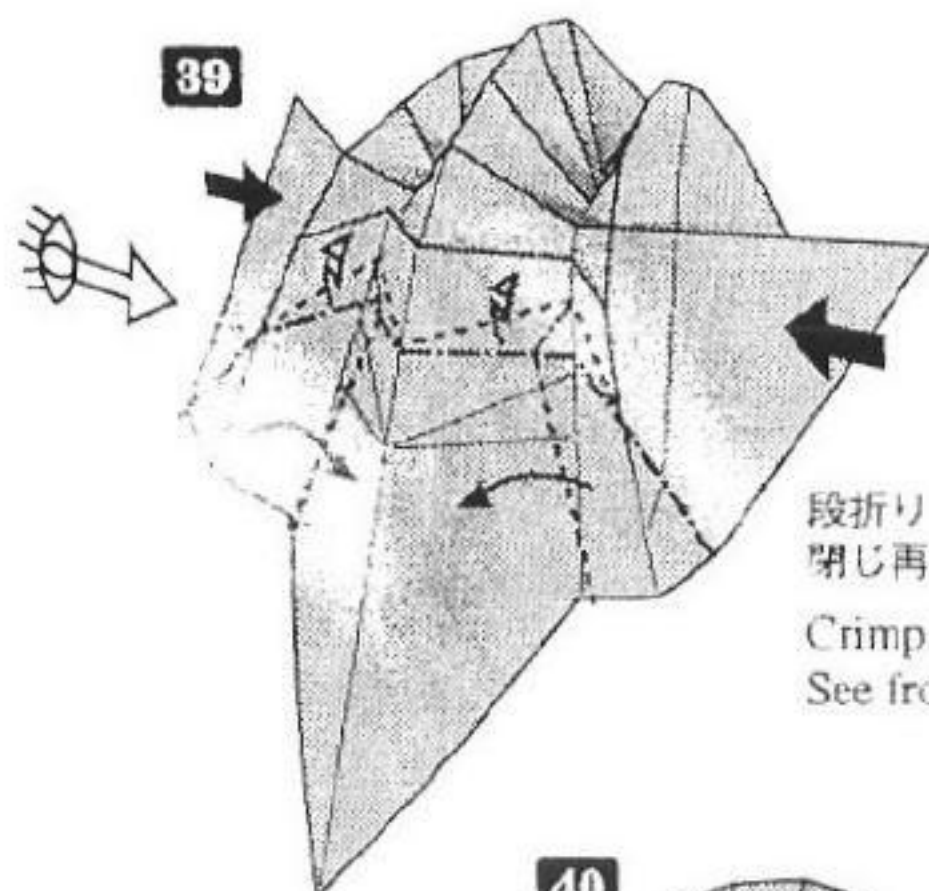


38



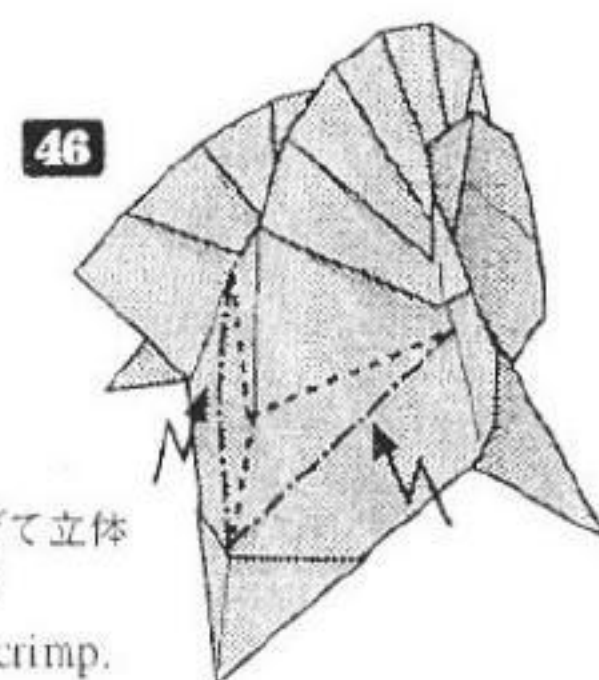
47

左右から閉じる
Close.



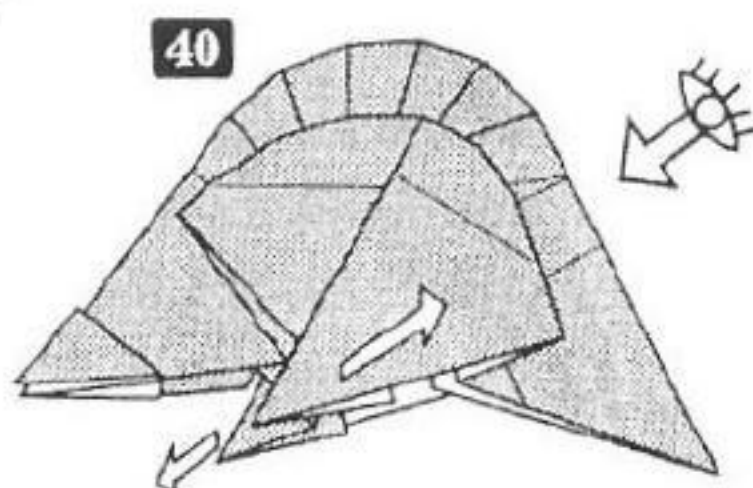
39

段折りして左右から
閉じ再び横から見る
Crimp and squash.
See from left side.

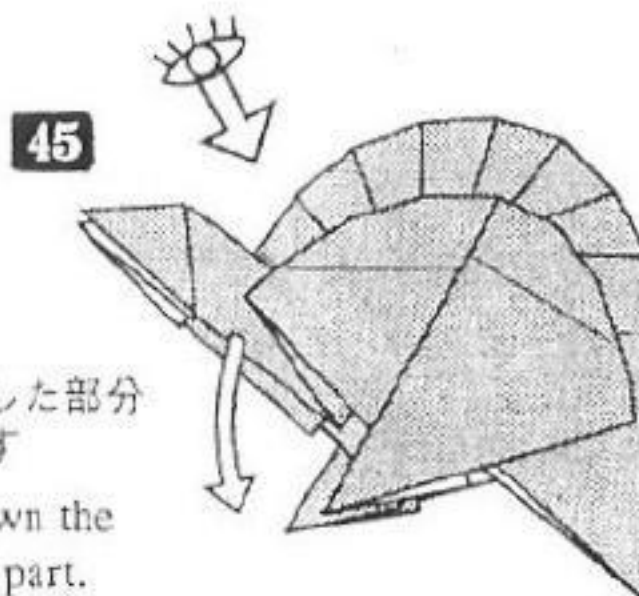


46

左右に広げて立体的
に段折り
Open and crimp.

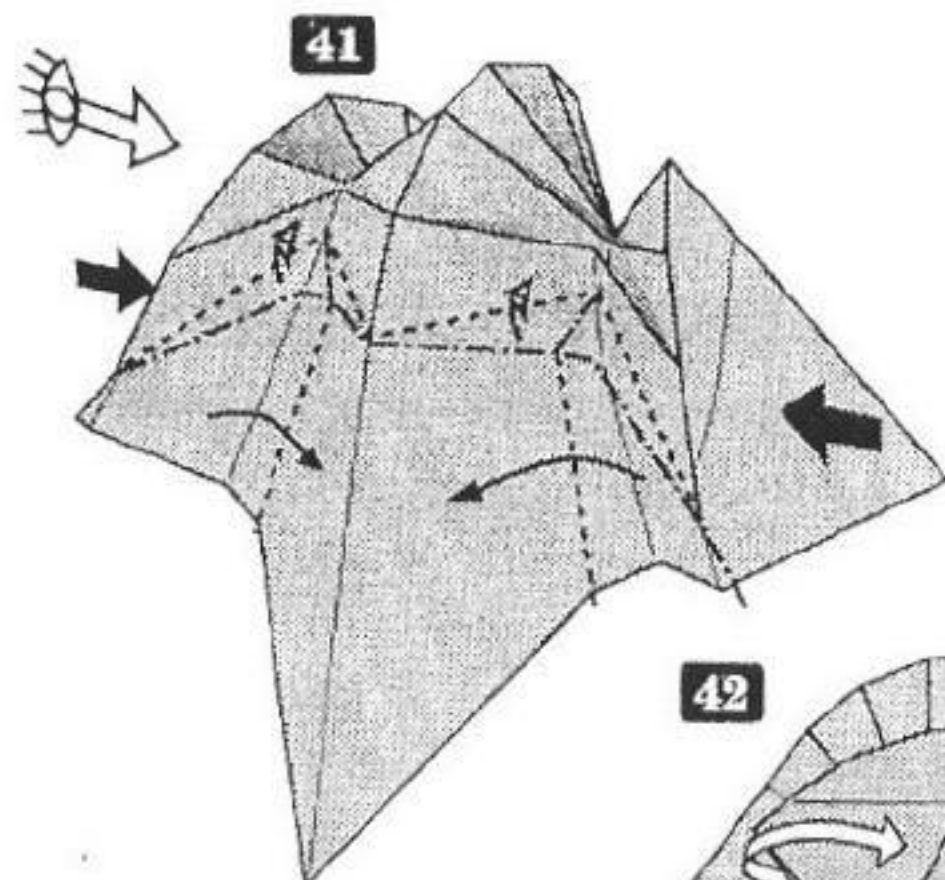


40



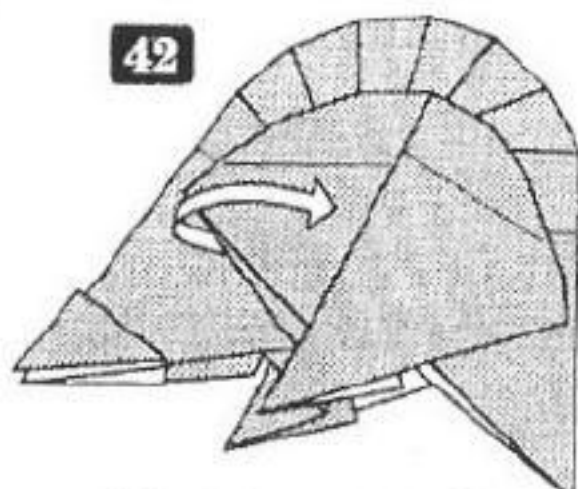
45

段折りした部分
を伸ばす
Pull down the
pleated part.



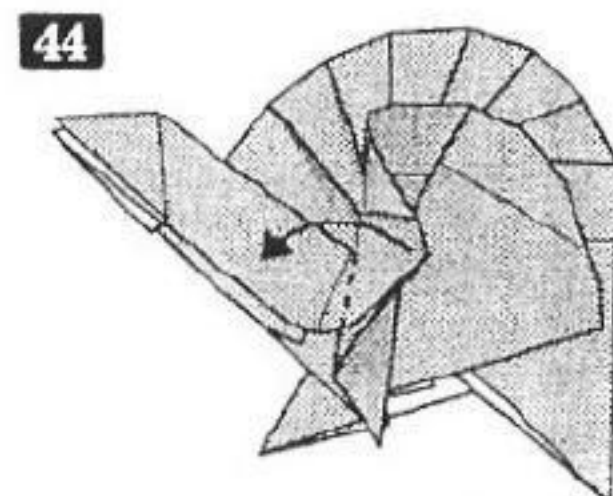
41

段折りして左右から
閉じ再び横から見る
Crimp and squash.
See from left side.



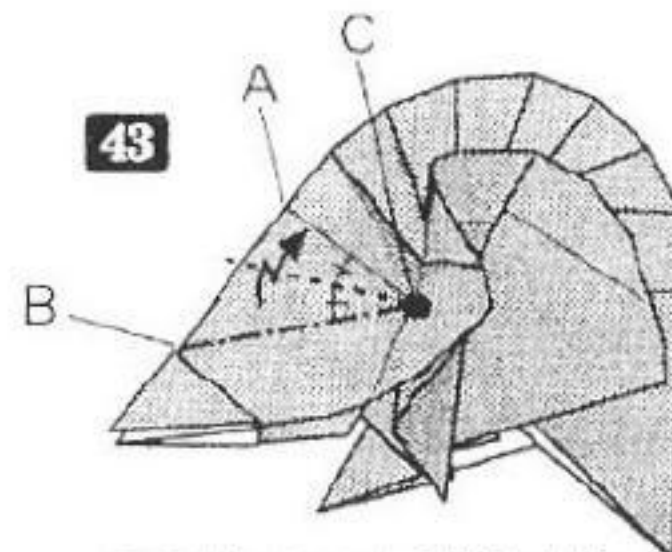
42

角をめくって、下が
見えるようにする
Open temporary.



44

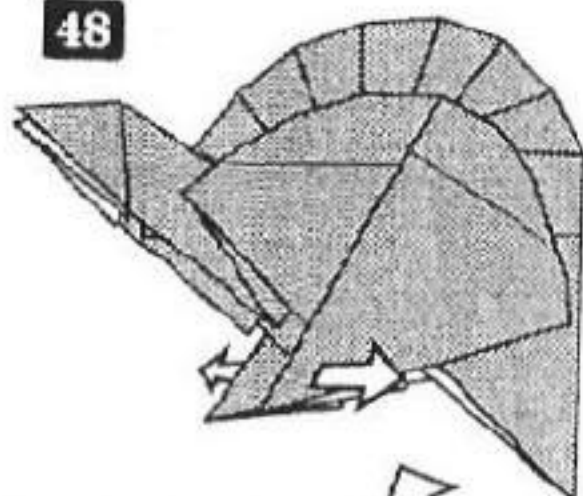
いったん閉じて
しっかり折り筋
を付ける
Close the
opened flap and
make creases
tightly.



43

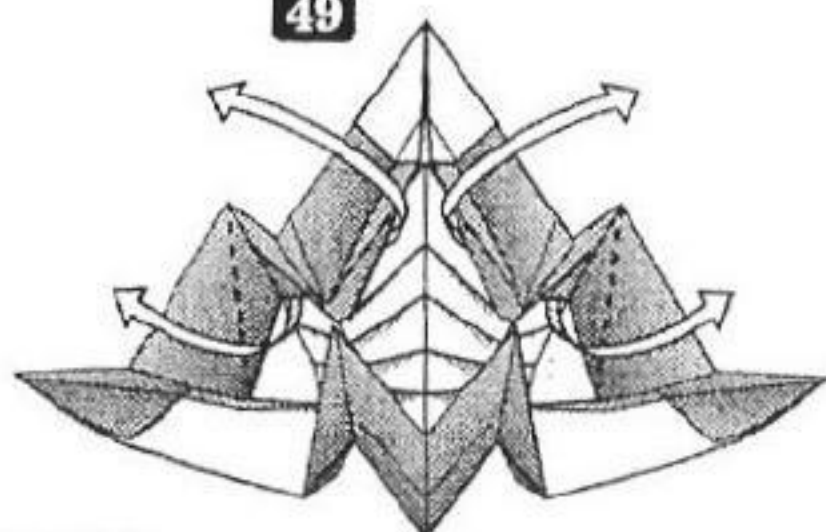
Bの角とCの点の間を山折
りして、Aの折り筋にそろ
えるように段折りする
Pleat mountain B-C up to
crease A-C.

48



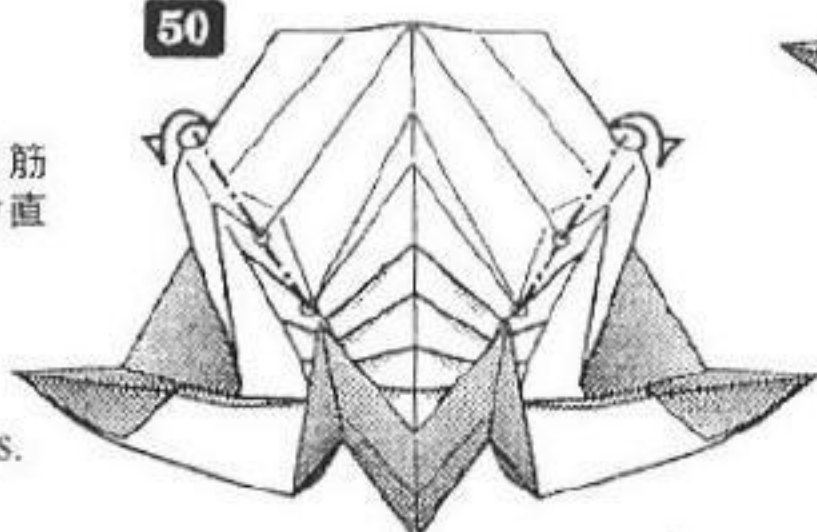
左右に広げて下
から見る
Open and see
from under rear
side.

49



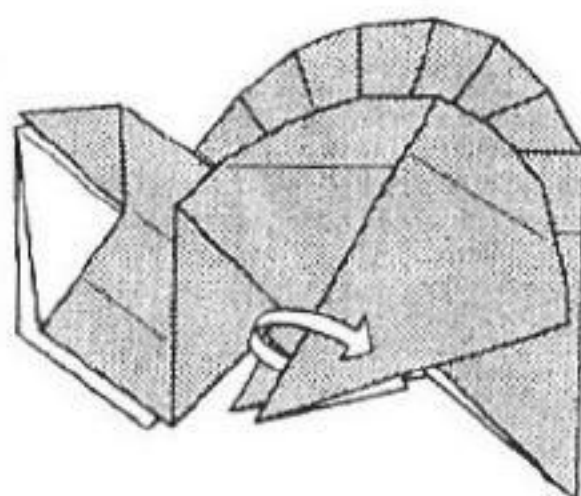
次の図のように、
折り込んでいた部分を引き出す
Pull out the inside flaps like next
diagram.

50



すでにある折り筋
をしっかり付け直
す
Make creases
tightly on the
existing creases.

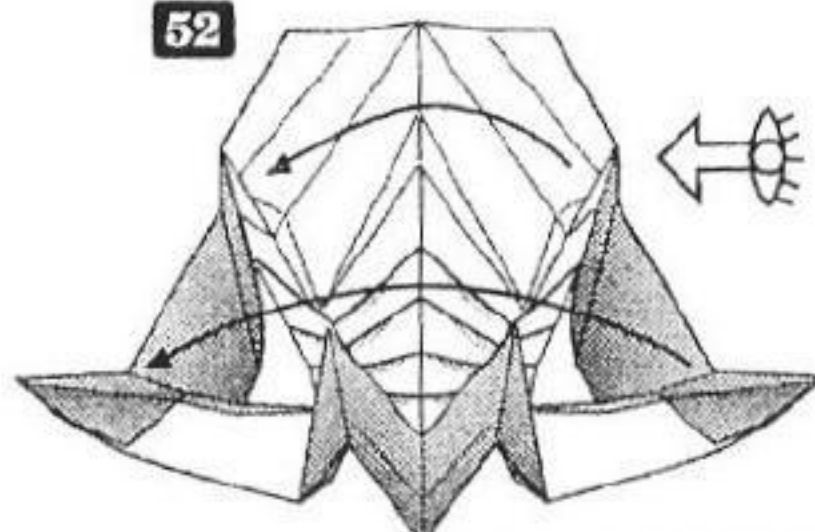
53



内側が見えるよう
に角を持ち上げる
Open the flap to
see inside.

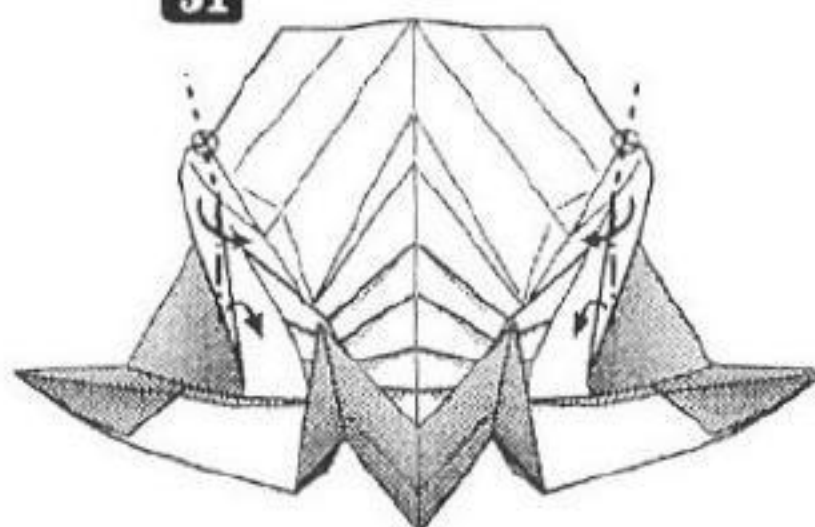
次回へつづく...

52



閉じて再び横から見る
Close and see from beside.

51



50 で付けた折り筋と辺の交差するところまでたるんだ部分をずらして折り込む
Pull down the loosen slackening and make creases across the point of edges and creases from step 50.

❄️❄️❄️ 次回からの巻頭論文のお知らせ ❄️❄️❄️

折紙探偵団もいよいよ第6期に突入しますが、次回から川畑文昭氏に代わりまして富山大学の鈴木邦雄氏に巻頭論文がバトンタッチとなります。

鈴木氏は昨年、滋賀県で開催された折紙の国際会議に雪の結晶折紙（創作折り紙「雪華」：幾何

折り紙への二、三の新しいアプローチ）について発表のため参加されました。この際、ふとしたはずみで昆虫折紙の議論に巻き込まれ探偵団入りとなりました。以下は氏より皆様への連載のごあいさつです。

「第2回折り紙の科学国際会議」は、たいへん楽しく、私の専門（昆虫形態学・系統進化学）の研究にとっても刺激的でした。大勢の探偵団員にお逢いできたことも嬉しい収穫でした。これまで折紙関係の集会には一度も出席したことがなかったのですが、これからは心を入れ替えてなるべく参加したいと考えていますのでよろしく。4月から巻頭の連載を執筆することになりました。創作折紙を始めた直後の87年「かたかご通信」という

自刊の通信を出そうと考え、その時「研究ノート」を連載する計画を立てましたが、諸々の事情で1号だけで頓挫。西川誠司→目黒俊幸→岡村昌夫→前川淳→川畑文昭と、錚々たるオリガミアン諸氏が担当してこられたこの欄、私自身の取り組みと問題意識を披瀝しながら、新たな気持ちで折紙の世界の新たな可能性について、私なりの問題提起をさせていただければと考えております。ご批判をいただけましたら幸いです。（鈴木邦雄）

マイケル・シャルさん の急逝を惜しむ

2月9日、オリガミUSAの代表を長い間つとめたマイケル・シャルさんが永遠に還らぬ人となりました。氏は、世界中の折り紙愛好家に、その友好的で明るい人柄とともに多大な影響を与えた人物でした。



ORIGAMI USAオフィスにてマイケル・シャルさんと山口氏

西川 誠司

マイケル・シャルさんの訃報を聞き悲しみに耐えません。私のことを「ボーイ」と呼び、微笑みかけてくれた人なつっこい笑顔が忘れられません。二度海外の方との交流の大切さ・喜びを最初に教えてくれたのもマイケルさんでした。氏から様々な思い出を教えられることがないでまもなくお別れしてとても残念です。ニューヨーク、サイモン&ガーファングル、ジュディ・ガーランドそして折り紙を愛したマイケルさん。今はただ、氏のご冥福を祈るばかりです。

前川 淳

10年以上前、わたしは東京でマイケルに会っているはずである。ところがどうしたわけか、そのときことをまったく覚えていない。その頃のわたしの精神状態のせいだろう。あれほど印象的な人物を忘れるということはほとんど考えられないことだ。アインシュタインやジョン・レノンに会って、それを覚えていないようなものだ。昨年6月にニューヨークで「再会」したとき、すでに病に侵されていたと後で聞くのだが彼は輝いていた。何というのだろう、彼は、そう、「ニューヨーカー」だった。偏見から自由で、明るく、友好的で、気前がよく、フットワークが軽やかである。物語の中でしか会えないような人物だ。そんな人物がおりがみをライフワークとしていたことをわたしたちは誇りにしよう。

長森 栄子

シャルさんとお会いしたのは、1年前の探偵団のニューヨーク旅行に参加した時でした。ニューヨークの見物や探偵団の歓迎パーティ（二次会ではシャルさんのご自宅にたくさ

んの人が夜中まで楽しんでお話ししました）など短い間にたくさんのことをして頂いて、折り紙をやっていた本当によかったなあ、と思う旅行でした。中でも一番思い出すのは、シャルさんが外は寒いからといってセーターや帽子などたくさん用意してくれたことです。私はシャルさんのお母さんの、という真赤なセーターとベレー帽をかしてもらって暖かくしながら嬉しかったです。

シャルさんのお部屋には壁一面に世界中の折り紙の友達からのポストカードや写真が飾られていました。折り紙と友達を本当に大切になさっていたシャルさんの意志を私も大事にしたいと思っています。たくさんの方の気持ちをどうもありがとうございました。

高井 弘明

昨年のニューヨーク旅行で、シャルさんと初めて会うことができました。常に人を楽しませたり、もてなすことを考えている、ユーモアにあふれた楽しいすばらしい人でした。私が恐竜が好きだというと、改装中の博物館をナイショで見せてくれたりもしました。私にとってのニューヨーク、いやアメリカの印象はシャルさんによって作られています。アメリカに行くということは、シャルさんに会えることだと考えていたのに、本当に残念です。

吉野 一生

シャルさんと言えば昨年の3月のニューヨーク訪問を思い出します。今から考えるとあのとき会ったのが最後になってしまい、行っておいて良かったと思います。あのときのシャルさんは実に元気でした。到着したての我々は時差ぼけの影響で完全にダウン。そこに夕方元氣良く彼が

現われたものでした。

彼の仕事場、彼の部屋も思い出します。仕事場はなんとニューヨーク自然史博物館の中にあり羨ましい限りでした。彼の部屋にはそれまでの友人や家族の写真が壁一杯に張ってあり、印象的でした。あれ以来もう会えないかと思うと残念でなりません。アメリカの人達と日本にいる我々では悲しみの現実感が異なると思いますがとても重要な人を失ったと思います。

山口 真

十数年前、彼が日本の折り紙愛好家との交流のため来日していたときに高濱さんと三人で食事をしたのが最初の出会いでした。マイケルは細やかな神経の持ち主で、初めてとは思えないほどリラックスしたの出会いでした。

二度目に会ったのはNOAの広島でのシンポジウムでした、このときは多くの参加者にフレンズのTシャツやバッジをプレゼントしていた。後で聞いた話だがこれらは全て彼のポケットマネーであったそう。また、この年は折紙探偵団ができた年で、彼は私に「ボスにならないで、いつまでもブラザーでいてくれ」といった言葉がとても印象に残った。

次に会ったのは昨年の3月。探偵団NY行きであった。布施さんとマイケルの気配りで、寒いNYで彼の温もりを肌で感じた楽しい道中でした。

さらに6月のNYのコンベンションでは夫婦揃って印象的でエキサイティングな日を過ごさせてくれました。

今年も会えると思っていたのにもう会えないんだね。タバコを吸う人が少ないNYで二人で隠れるようにして、小さくなって吸ったタバコの味が忘れられない。

さようならマイケル。

「折紙探偵団 ミニコンベンション」迫る

折紙探偵団では、結成5周年を記念して、「折紙探偵団・ミニコンベンション」を以下の要領で開催いたします。

日時 95年4月15日(土) 11:00受付

「折り紙教室」14:10~17:00 18:00~懇親会
95年4月16日(日) 9:00受付

「折り紙教室」10:00~11:50、13:10~17:00
会場は、文京区民センター(最寄り駅、都営三田線

春日駅および地下鉄丸の内線後楽園駅)

このコンベンションは、折紙探偵団の団員が講師になって行う「折り紙教室」大会です。最大20名程度までを1教室として、比較的易しいものから難解なものまで、じっくり折って楽しんでいただこうと言う企画です。主な講師は、岡村昌夫、川畑文昭、前川淳、木村良寿、西川誠司、吉野一生、山田勝久らを予定している。

○概要

折紙探偵団も結成してはや5年が経過しました。これを一つの節目としてイベントを企画しました。

今回企画した「折紙探偵団 ミニコンベンション」は、2日間に渡って、たっぷり折り紙を楽しんでいただこうというものです。日頃、折り図をみて感じた疑問点や、写真のみでしか紹介されたことのない作品を作者自らあるいは研究家が講師となって解説してもらえます。

各教室は、定員15~20名程度で行われます。1教室は50分を単位としていますが、時間のかかるものは2回を連続して使用し、約2時間かけて取り組むことになります。また、教室で解説された作品の「折り図集」を用意する予定です。

この「折紙探偵団 ミニコンベンション」は、2日に渡っているため遠方で宿泊の必要な方のために会場近くの宿泊施設をご紹介します。詳しくは右ページをご覧ください。

参加募集定員が、まだ少々残っておりますのでご希望の方はお早めにお申し込み下さい。

プログラムトピックス

以下のものはあくまで予定であり都合により変更する場合があります。

ついに登場「飛ぶかぶと虫」

探偵団新聞誌上でもご紹介した「昆虫大戦争」。昨年の探偵団展でも多数出品された「飛ぶー」シリーズからは前川淳氏の「飛ぶかむと虫」が予定されている。昆虫作品の究極

である「飛ぶ昆虫」を作者自らがじっくりレクチャーしてくれる。腕に覚えのある方は是非挑戦してみたい。

恐竜折り紙を極めるなら

人気根強い恐竜折り紙。恐竜折り紙の講師は、川畑文昭氏と木村哲夫氏が担当します。

川畑氏の豊富なレパートリーのなかからティラノサウルス・ニューバージョンを作者から直に習うことができます。また、川畑氏の未発表作品を集めた新しい恐竜折り紙作品集(おりがみはうす出版)も完成間近で、この機会に間に合わそうと努力中。参加すればたっぷり恐竜折り紙

を仕入れて帰れること請け合いです。

木村氏は、恐竜好き集団「恐竜クラブ」のメンバー。「季刊をる」のバージェス動物群をご記憶の方も多いたはず。恐竜談義に花を咲かせながら、木村氏の新作を披露していただく。

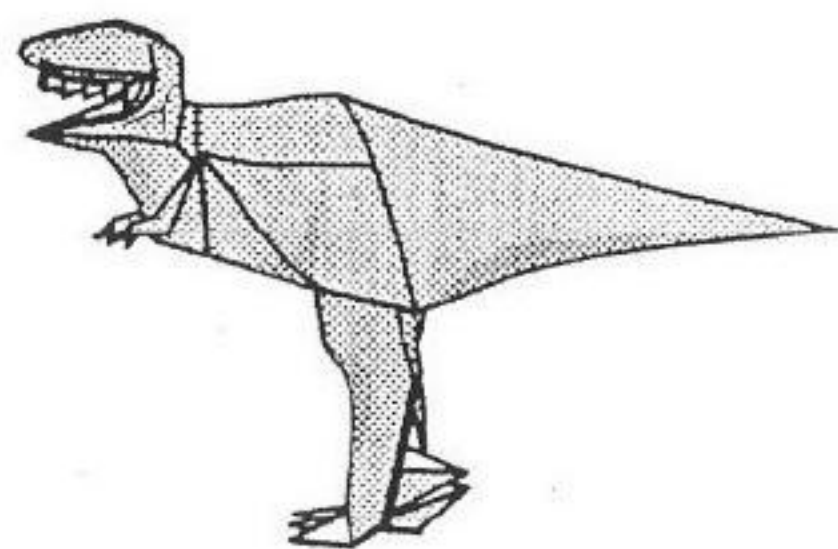
恐竜折り紙でスタートした折紙探偵団。恐竜折り紙を極めるなら折紙探偵団のコンベンションに参加するしかない。

古典折り紙に親しもう

古典折り紙の研究で「折紙探偵団新聞」や「季刊をる」誌上で活躍中の岡村昌夫氏に古典折り紙の神髄を紹介していただく。毎月1回おりがみはうすで行われている人気の「岡村教室」は、例えば「秘傳千羽鶴折

形」の折り方解説にとどまらず、歴史的背景やそこに添えられた狂歌の解説も交えたもの。

普段この教室参加できない方も古典折り紙に親しむまたとないチャンスだ。



「季刊をる」のあの作品が

季刊をる7号の表紙を飾った山田勝久氏の作品「カエルに喰われるヘビ」の教室が予定されている。更に前川淳氏は、「折り線付き折り紙」の解説を予定している。北條高史氏は、「バイオリンを弾くひと」を予定。

特撮怪獣・伝説動物に挑戦

木村良寿、西川誠司両氏は、特撮怪獣を担当する。木村氏はゴジラの永遠のライバル「キングギドラ」。

西川氏はウルトラマンから「ゼットン」を予定。また、中学生神谷哲史君が「竜」を予定。

精巧なオートバイ

吉野一生氏は、名作「オートバイ」。以前、探偵団新聞で掲載したレーシングタイプに加え、今回はオフロードタイプを吉野氏の精巧な書き下ろし折り図付きで解説する予定。

折り紙手品も

和久敦也氏のマジックはプロ級の腕前。和久氏には懇親会でマジックショーをしていただく予定。教室では、マジックの種明かしが期待できる。

宿泊施設案内

今回のコンベンションに際して、宿泊を必要とされる方のために宿泊施設のご案内を致します。事務局では一括受付を致しませんので以下のホテルに直接お問い合わせ下さい。

○サテライトホテル後楽園

最寄り駅、丸の内線後楽園駅
1名¥10000-¥12000 03-3814-0202

○ホテル小石川ダイエー

最寄り駅、都営三田線春日駅
ルームチャージ ¥7700 (シングル) - ¥13200 (ツイン) 03-3813-6271

○後楽園会館

最寄り駅、丸の内線後楽園駅 ¥7500 (1名) ¥24000 (4名) 03-3815-8171

○朝明館

最寄り駅、丸の内線本郷三丁目駅
¥5800 (食事なし) ¥8000 (二食)
03-3811-7205

布施、芳賀両氏も講師に

布施知子、芳賀和夫両氏も講師としてお迎えする。

布施氏からは、「らせんボックス」などを直に教えてもらえる。

芳賀氏は、折り紙の不思議な世界

「オリガミックス」をじっくり解説いただける。

更に目黒俊幸には、「折紙設計論」を詳しく解説していただける予定である。

難解な作品だけじゃない

探偵団といえば、難しい作品ばかりと考えておられる方も多いかも知れません。しかし、そんなことはありません。今回のコンベンションでは、「ユニット」、「花」、「遊べる折り紙」などを教える教室もたっぷり用意されています。

探偵団婦人部のベテラン講師が折り図からはなかなかわからない、折り紙のコツを丁寧に解説してくれます。

また、子ども達に人気の動く折り

紙として、木村良寿氏の「シンバルモンキー」なども予定されています。

更に、服部正春氏が「ユニット」を担当。高井弘明氏の「染め紙教室」や山口真氏による「紙からの逃走体験教室」(「季刊をる」でお馴染みの)も予定されています。

このように、難解な作品ばかりではなく、様々な折り紙体験ができるように企画を進めていますので初心者の方も心配せず参加してみてください。

折り紙相談室も開設

日頃、「折紙探偵団新聞」や「季刊をる」やその他の折り図でわからないところや、折り紙に関する様々な質問・疑問にお答えする「よろず

相談コーナー」も開設する予定。折りかけの作品をご持参のうえ、質問コーナーに集まっていただきたい。

参加者募集中

参加者を募集しています。

折り紙好きならどなたでも大歓迎ですが、小学生以下のお子さんにはなるべく父兄の方のご同伴をお願いします。

期日が迫っております。参加ご希望の方は早めに同封の申込用紙で探偵団事務局(〒112 東京都文京区白山5-36-7 ギャラリーおりがみはうす内)にお申し込み下さい。定員(120名)になりましたら締め切らせていただきますのでご了承下さい。参加費 4000円(1日だけの参加の場合も半額にはなりません。ご了承下さい。)
「コンベンション折り図集」をご希望の場合は、あわせて5000円となります。懇親会は別途4000円必要です。当日受付にてお支払い下さい。懇親会のみ参加も受け付けています。

○ふじや旅館

最寄り駅、都営三田線春日駅
¥6500-¥7500 03-3811-4337

○水道橋グランドホテル

最寄り駅、都営三田線水道橋駅
ルームチャージ ¥7000 (シングル) - ¥15000 (トリプル) 03-3816-2101

○ホテル機山館

最寄り駅、丸の内線本郷三丁目駅
ルームチャージ ¥8000 (シングル) - ¥13000 (ツイン) 03-3812-1211

○旅館しみず別館

最寄り駅、都営三田線春日駅
03-3812-6285

○富士館

最寄り駅、都営三田線春日駅
03-3813-4441

○ホテル本郷館新館

最寄り駅、都営三田線春日駅
03-3811-6236~9

○鳳明館

最寄り駅、都営三田線春日駅
03-3811-1181

おりすじ

エッ、またなの？

折紙原人 山梨雅弘

どーも、二人目の山梨です。折紙って遺伝とか、家系とかあるのかネ。(これじゃ、前号と同じだ。)にわかに騒がしくなった折紙事情、うすうす知りつつ、18年も生き馬の目を抜くデザイン屋に明け暮れていました。昨年退社し、ピンボーひまだらけの古本屋をはじめた開放感で遅まきながら、季刊「をる」を手にしました。中学まで熱中していたのと別世界に成長した折紙との再会。41才過ぎて、モーレッツな折紙欲をかかえて訪れたおりがみはうすに頭は爆発。こんな本、紙あったの！

以来、人の作を折り、私なりの創作もはじめ、しかし多少の疑問も感じるようになりました。設計する折紙は大歓迎。でも不切一枚折りのためだけに、15cmの紙から5cmに満たない作になるなら、紙の面積のほとんどは無為に収納されているはず。部分に厚さが集中し、折りにくく、薄い部分は強度不足な、マズイ設計も散見されます。末端肥大症的な、カドの数の帳尻合わせ。(効果的な作品もむろん有るが。)

その疑問に少し答えてくれたのは、西川氏のカブトムシと世浪氏のコマイヌ。紙の内部も生かされていて、大きく折れる。紙圧もうまく分散されていて無理がない。強度バランスも良好。折鶴のように紙自体がロック機構となり、形が崩れにくい。また、大きく仕上がるから、小さい紙でも再現性が良い。こんな一般的評価基準、不切一枚折りに求めるとさらに高度な設計になるはず。

CAD、長方形採用で、これまでの技術の粋としての理想、不切一枚折りの意義も、ジグソーパズルでしかなくなりつつあるなら、むしろ紙の特性を生かす折紙、ムダ、ムラ、ムリのない設計思想や、奥の手、切るを使ってでも大きく、だれでも折れる工夫にも間口を広げては？

私はというと、まだつたない設計力ながら、昨年末、ジュラシックパークの生命感ある恐竜が折りたくて、鶴の基本形の対向する2枚の中央を切り、カドを増した「ヅルの基本形」からプロポーションの良い恐竜がたくさん折れることを発見。アゴも指もありませんが、ノーディフォルメが自慢。菱形に應用すれば、首の長い竜も。なにより15cmの紙で、10cmを越すサイズ。いずれは私も、これらを不切化できるでしょう。

設計する折紙というコンセプトがもたらした無限の広がり。一部マニアのものだけでなく、新しく伝承できる折紙への目でもあって欲しいと考えるのは、私だけではないはず。子供の遊びも、パズルも、芸術も等しく折紙の特徴でありうる。

うまく発展させてください。一枚で二度おいしい二体一枚折りなどの、新テーマがとても面白い。

発見が多いほど楽しいのは「趣味」の醍醐味。つぎは20手(折図)に納まるリアル恐竜？それとも障子紙一本まるごと使った長方形折り？ひよっとすると…

私たち造形屋には、ヒョータンからコマの妙技、あります。

ギャルにモテモテのひみつ



半年後……



ギャラリー おりがみはうす

個展案内

「季刊をる」作品展

これまで「季刊をる」誌上に掲載された作品を一挙に展示!
期間;3月より。

折紙探偵団定例会の お知らせ

次回の例会は、2月25日(土)と3月25日(土)です。12:30から入室可能です。

場所は、2月25日が文京区民センター。3月が文京区民センターか文京区シビックセンターです。詳細はお電話でご確認下さい。

発行・折紙探偵団

〒112 東京都文京区白山5-36-7

ギャラリーおりがみはうす内

Phone (03) 5684-6040

発行人・西川誠司

編集人・岡村昌夫